YAMAHA

スノーモビル

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

RX-1 M-TX

8GY-28199-J0

おねがい

ヤマハ商品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を充分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用される前には必ず本書を最後までよくお読みください。また、ご使用時には携帯して、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ **安全にかかわる注意情報を示してあります。**

⚠警 告 **取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**

注 意 **取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

この車はレース仕様車ではありません。
したがってレースにご使用されますと、保証対象外になることがあります。

- 仕様変更などにより、本書の写真や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、本機の転売や譲渡をされる場合は必ず添付してください。
- 将来、廃棄される場合およびバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の販売店名・捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早目にお買い上げのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。
ヤマハ販売店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

目次

重要ラベル 4
⚠安全にご使用するにあたって 8
●運転の前に 8
●始動の前に 8
●運転中は 8
●風通しの悪い場所でエンジンを始動しない 9
●ヤマハ純正部品 9
●保守と保管 10
各部の名称 12
コントロール機能（各部の機能） 14
●メインスイッチ 14
●スロットルレバー 14
●スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.） 15
●マルチファンクションメータユニット 16
●ハイビームインジケータ 18
●クーラント温度低下インジケータ 18
●燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ 19
●フューエルレベル警告灯 20
●オイルレベル警告灯 21
●クーラント温度警告灯 21
●自己診断装置 22
●エンジン停止スイッチ 22
●ヘッドライトビームスイッチ 23
●グリップ/サムウォーマー調整スイッチ 23
●DCジャック 24
●ブレーキレバー 25
●パーキングブレーキレバー 26
●シフトレバー 26
●シュラウドとカバー 27
●ドライブガード 27
●Vベルトホルダ 29
●収納用コンパートメント 29
●リヤキャリヤ 29
●燃料 30
●サスペンション 31
使用前の点検 36
●使用前の点検リスト 36
操作方法 38
●エンジンの始動 38
●慣らし運転 39
●スノーモビルに乗る 40
●ドライブトラックを長持ちさせるには 45
●ストラップ 45
●走行 46
●エンジン停止 47
●輸送 47

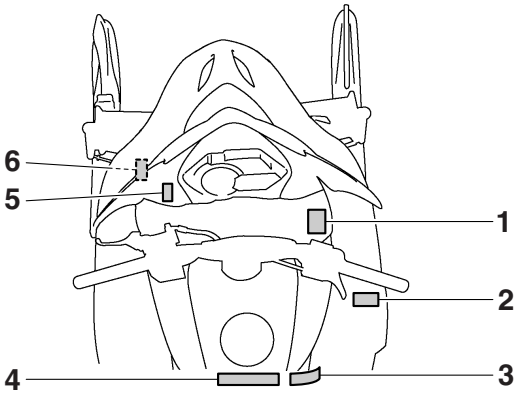
定期点検 48
●排ガス制御装置の
定期点検チャート 48
●一般的な点検と潤滑チャート 49
●ツールキット 51
●シュラウドとカバーの取り外しと
取り付け 51
●スパークプラグの点検 53
●エンジンのアイドリング回転数の
調整 55
●スロットルケーブルの遊びの調整 56
●スロットルオーバーライドシステム
（T.O.R.S.）の点検 57
●エアフィルタの点検 58
●標高の高い場所で走行する場合
の設定 59
●バルブクリアランス 59
●エンジンオイルと
オイルフィルタカートリッジ 60
●冷却システム 64
●Vベルト 66
●ドライブチェーンハウジング 69
●ブレーキ、パーキングブレーキ 70
●エクストロバートドライブ
スプロケット 73
●スキー、スキーランナー 73
●ステアリング系 74
●ドライブトラック、
スライドランナー 75
●山高パターンのドライブトラック 78
●給脂 78
●ヘッドライトバルブの交換 79
●ヘッドライトビームの調整 81
●取付金具、ボルト類 81
●バッテリ 81
●ヒューズの交換 82
トラブルシューティング 86
保管方法 92
仕様諸元 94
お客様ご相談窓口のご案内 96
識別番号の記録 98
保証 99
索引（さくいん）.....100

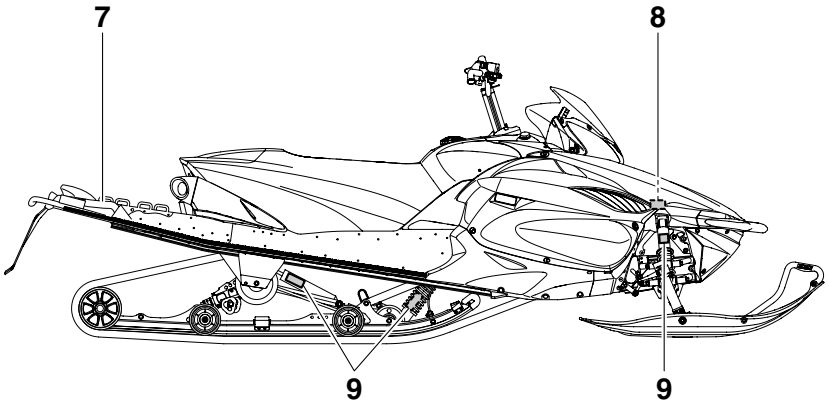
重要ラベル

スノーモビルを運転する前に以下のラベルをよくお読みください。

要　点

重要ラベルは、外さないようにし必要に応じて新しいものと交換してください。





1

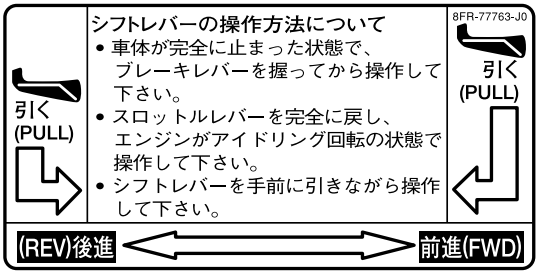
⚠ 警　告

ハンドルストラップの取り扱いを誤ると事故になるおそれがあります。

- 斜面走行中、山側に体重移動させてバランスを保つときのみにハンドルストラップを使用して下さい。
- ハンドルストラップの使用時は片方の手でハンドルを保持して下さい。
  また、走行中は急に車速や進行方向を変更しないで下さい。
- ハンドルストラップを使っての急斜面走行は熟達した人のみが行って下さい。

8FN-77761-J0

2



3

注　意

この車輌は深雪走行用に 57mm(2.25in.)山高トラックを装着しています。

- 雪の少ない路面や氷上、硬い路面、泥地での使用はスライディングランナーの早期摩耗、トラックの破損するおそれがあります。

8HR-2815M-J0

4

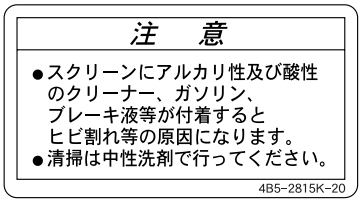
⚠ 警　告

安全な運転のために次の事項を必ずお守り下さい。

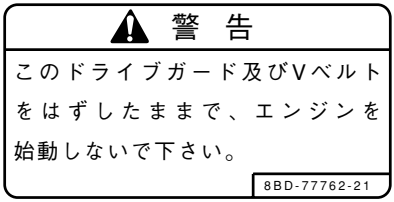
●運転前に“取扱説明書”および全ての“ラベル”を良く読み、熟知してからご使用下さい。
●運転はスノーモビル運転に熟達した人の指導のもとで行って下さい。
●この車は一般道路は走行出来ません。（オフロード車）
●この車は一人乗りです。運転者以外は乗車出来ません。
●エンジン始動前にスロットルレバー、ブレーキレバー、ハンドル等が正常に作動することを確認して下さい。
●“パーキングブレーキ”をロックしてからエンジンを始動して下さい。また、走行前にはロックを解除して下さい。
●緊急時のエンジン停止は“エンジンストップスイッチ”を押して下さい。
●“ドライブガード”や“Vベルト”を外したままでエンジンを始動しないで下さい。
●燃料給油はエンジンを停止してから行い、給油後は“タンクキャップ”を確実に閉めて下さい。
●運転前にシフトレバーの位置（前進又は後進）を確認して下さい。
●“ヘルメット”“ゴーグル”“手袋”“防寒具”等を装着して運転して下さい。

8FR-77761-J0

5


注　意
●スクリーンにアルカリ性及び酸性のクリーナー、ガソリン、ブレーキ液等が付着するとヒビ割れ等の原因になります。
●清掃は中性洗剤で行ってください。
4B5-2815K-20

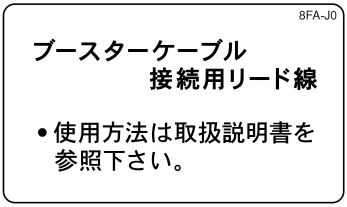
6


警　告
このドライブガード及びVベルトをはずしたままで、エンジンを始動しないで下さい。
8BD-77762-21

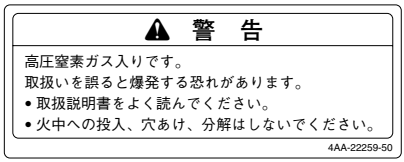
7

積載の制限
10kg
4AS-24877-D0

8


8FA-J0
ブースターケーブル
接続用リード線
• 使用方法は取扱説明書を参照下さい。

9


警　告
高圧窒素ガス入りです。
取扱いを誤ると爆発する恐れがあります。
• 取扱説明書をよく読んでください。
• 火中への投入、穴あけ、分解はしないでください。
4AA-22259-50

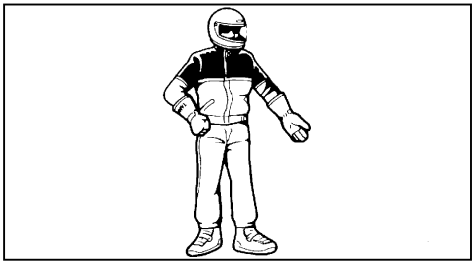
⚠安全にご使用するにあたって

スノーモビルに乗る時は、安全のため次の事項をよく理解し活用してください。
これら事項が守られなかった場合、死亡または重傷に至る恐れがあります。

運転の前に

- スノーモビルを運転する前に取扱説明書とラベル全部を読んでください。運転に関係するコントロール部位やその機能をすべて充分に理解してください。コントロール方法や機能について不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

- 体を保護する衣類を着用してください。ヘルメットはPSC, SGまたはJISマークのあるものを着用してください。フェイスシールドまたはゴーグルを着用してください。スノーモビル用スーツ、ブーツ、手袋（指でコントロール類の操作ができるもの）を着用してください。



- アルコール類や薬を飲んで運転しないでください。アルコールや薬は運転者の運転能力を低下させます。

始動の前に

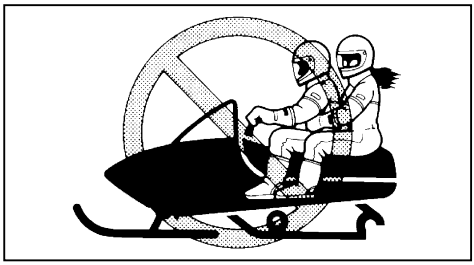
- 安全のため、またスノーモビルの適切な手入れのため、エンジンを始動する場合は必ず36ページに記載された使用前の点検をおこなってください。エンジン始動のたびにスロットル、ブレーキ、ハンドルの適切な作動を点検してください。スロットルレバーがスムーズに動き、放すと元の位置（完全にスロットルが閉じた状態のこと）に戻ることを確認してください。

- エンジンを始動する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけたままスノーモビルを走らせないでください。もし走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキの性能が低下する恐れがあります。

運転中は

- このスノーモビルは公道を走れるようには作られていません。公道の走行は法律で禁止されており、公道を走ると他の車両と衝突する恐れがあります。

- 当スノーモビルは、ライダー（運転者）のみが乗るように設計されています。
  パッセンジャー（同乗者）は乗ることができません。パッセンジャー（同乗者）を乗せると、制御不能になることがあります。



- スノーモビルの走行は慎重におこなってください。雪の下には障害物が隠れていることがあります。スキーの跡をたどって走行すれば危険を最小限にとどめることができます。スキーの跡から外れる時はゆっくり注意して走行してください。岩や切り株にぶつかったりワイヤーに引っかかったりすると事故や負傷のもとになります。

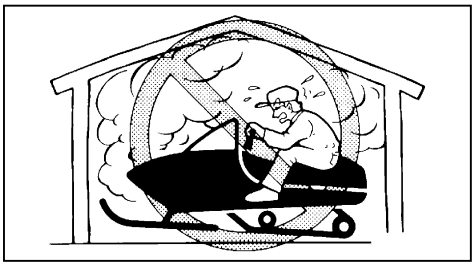
- このスノーモビルは雪または氷の表面以外を走るようには設計されていません。泥、砂、草、岩、雪のない路面の上を走行すると制御不能となり、あるいはスノーモビルを傷つけることがあります。

- 走行する時は必ず他のスノーモビルと一緒に行動してください。燃料不足、事故、故障時に、助けが必要になるからです。

- 氷や圧雪など、多くの雪面では停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。ほとんどの表面で最良のブレーキのかけ方は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけることです（急にかけてはいけません）。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
  スノーモビルを建物に出し入れする時を除き、屋内ではエンジンをかけないでください。
  屋内でエンジンをかける時は戸外に通じるドアを開いてください。



  また、排気ガスが窓やドアから屋内に入りこんでしまうような場所でもエンジンを始動しないでください。

ヤマハ純正部品

スノーモビルの部品を選ぶのは重要な決定です。ヤマハ純正部品はあなたのスノーモビルの為にデザイン、テストの上で認定され、ヤマハ販売店からのみ入手可能となっています。ヤマハと全く関係のない他社でパーツやアクセサリーを販売したり、ヤマハ車の改造を提供している事がありますが、ヤマハはこれら市場に出ている部品をテストする立場にはいません。したがってたとえそれがヤマハ販売店によって売られ、改造されたとしても、ヤマハで売られていない部品、または推奨されていない改造である場合はお勧めすることはできません。

保守と保管

- 点検整備時にスノーモビルを横にする際は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。

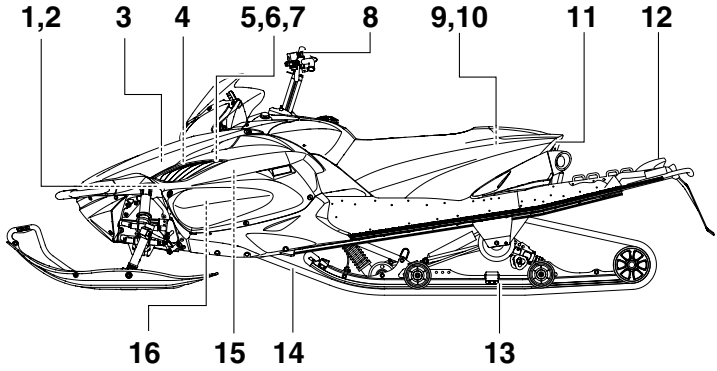
- スノーモビルを長期間保管する場合は、左側を下にして置かないでください。燃料ブリーザーホースから燃料が漏れることがあります。

- スノーモビルを始動、点検あるいは調整する時は、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石などが、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。

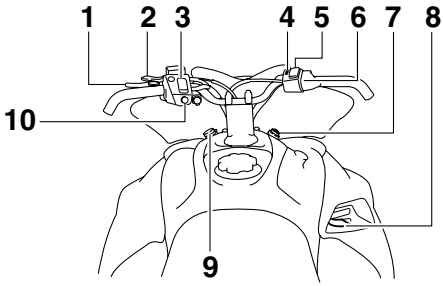
- ヤマハの承認なしにスノーモビルを改造し、あるいは純正装備品を取り外した場合、スノーモビルを安全に使用することができなくなり、乗員が重傷を負う恐れがあります。また改造したスノーモビルの使用は法律違反になります。

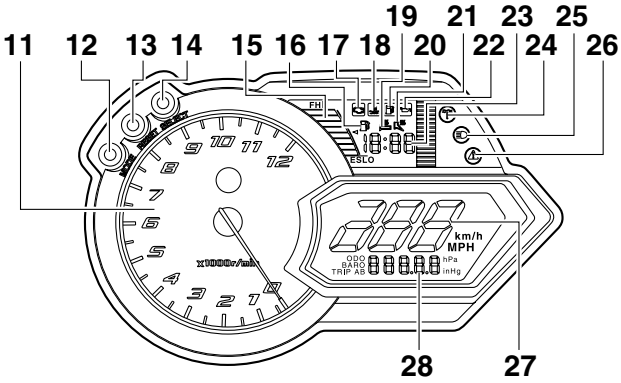
- 給湯器やヒータ、火気、火花、衣類乾燥機など、発火源がある建物内では、決して燃料タンクに燃料を入れたままスノーモビルを保管しないでください。閉鎖空間にスノーモビルを保管する場合は、エンジンが冷えてからにしてください。

各部の名称



1. バッテリ
2. メインヒューズ
3. エアフィルタ
4. オイルフィラーキャップ
5. ヒューズボックス
6. クーラントリザーバ
7. クーラントリカバリータンク
8. ストラップ
9. ツールキット
10. 収納用コンパートメント
11. テール/ブレーキライト
12. リヤキャリヤ
13. スライドレールサスペンション
14. ドライブトラック
15. アイドリング回転数調整スクリュ
16. Vベルトホルダ





1. ブレーキレバー
2. パーキングブレーキレバー
3. グリップウォーマー調整スイッチ
4. エンジン停止スイッチ
5. サムウォーマー調整スイッチ
6. スロットルレバー
7. メインスイッチ
8. シフトレバー
9. DCジャック
10. ヘッドライトビームスイッチ
11. タコメータ
12. “MODE” ボタン
13. “RESET” ボタン
14. “SELECT” ボタン
15. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベル インジケータ
16. 燃料計インジケータ
17. 自己診断警告灯
18. クーラント温度警告灯
19. グリップウォーマーインジケータ
20. フューエルレベル警告灯
21. サムウォーマーインジケータ
22. オイルレベル警告灯
23. 時計
24. クーラント温度低下インジケータ
25. ハイビームインジケータ
26. 警告灯
27. スピードメータ
28. オドメータ/トリップメータ/バロメータ

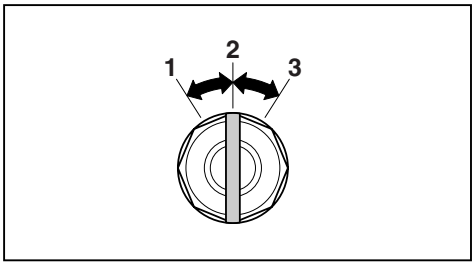
要　点

- お買い上げ頂いたスノーモビルは、当取扱説明書の図に示すものと細部が異なっている可能性があります。
- スノーモビルの設計内容や仕様は、予告なく変更される場合があります。

コントロール機能（各部の機能）

メインスイッチ

メインスイッチは、点火系と灯火装置の制御をおこないます。メインスイッチの切替え位置は、以下の3つです。



1. Off（オフ）位置
2. On（オン）位置
3. Start（始動）位置

Off（オフ）位置

点火回路をオフにします。
キーはこの位置でのみ抜くことができます。

On（オン）位置

点火回路をオンにします。

Start（始動）位置

始動回路をオンにします。
スタータモータでエンジンが始動されます。

注 意

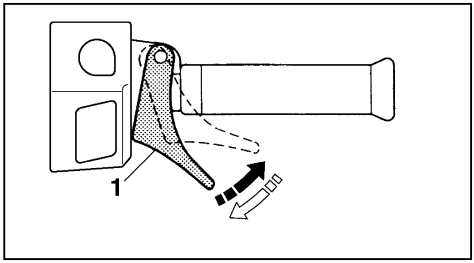
エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。

要　点

エンジンが始動するとヘッドライトとテールライトが点灯します。

スロットルレバー

エンジンがスムーズに回っている時、スロットルレバーを押すとエンジンの回転が上がり、動力が駆動系につながります。スロットル位置を変えてスノーモビルの速度を制御します。スロットルレバーはスプリングの力で押されており、スロットルレバーを放すとスノーモビルは減速し、エンジンはアイドリング状態に戻ります。



1. スロットルレバー

スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

⚠ 警 告

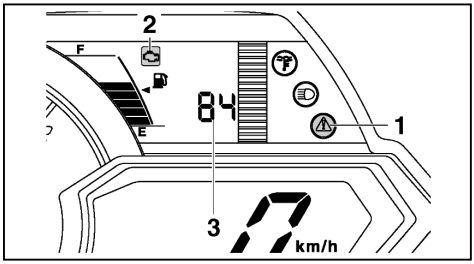
T.O.R.S.が起動した場合は、不具合の原因が解消されエンジンが正常に作動することを確認した後、再度エンジンを始動してください。

運転中にスロットルバルブまたはスロットルケーブルの機能不良が起こった場合、スロットルレバーを放した時にT.O.R.S.が作動します。
T.O.R.S.は、スロットルレバーを放してもスロットルバルブがアイドリング位置に戻らなかった場合に、燃料噴射を中断し、エンジンはクラッチが接続される回転数以下になるように設計されています。

	アイドリング時	走行時	トラブル時
スロットルレバー	離す	押す	離す
スロットルバルブ	閉じる	開く	開く
T.O.R.S.	エンジン正常運転	エンジン正常運転	T.O.R.S.作動

要 点

T.O.R.S.が起動すると、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、“84”というエラーコードがメータのパネル内で点滅表示されます。エラーコードが表示されたときは、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。



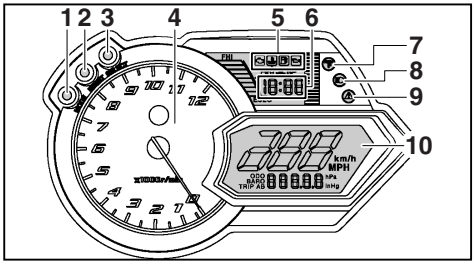
1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコードが“84”を表示

マルチファンクションメータユニット

マルチファンクションメータユニットには、以下のそれぞれの機能が搭載されています。

- デジタルスピードメータ
- タコメータ
- オドメータ
- トリップメータ（前回0 kmに設定してから現在までに走行した距離を表示します）
- バロメータ（外気圧を表示します）
- 時計
- 各種警告灯（自己診断、クーラント温度、フューエルレベル、およびオイルレベルの各警告を表示します）
- インジケータ（ハイビームおよびクーラント温度低下の状態を示します）
- 警告灯（警告灯と共に、各警告を表示します）
- 燃料計（フューエルタンク内の燃料の残量を表示します）
- グリップ/サムウォーマーレベルインジケータ（グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示します）
- ディスプレイの明るさ調整機能

メインスイッチをOnにすると、タコメータの指針が一旦最大値まで振れてから元に戻ります。またクーラント温度低下インジケータ、警告灯、およびメータの全セグメントが点灯してから消灯します。



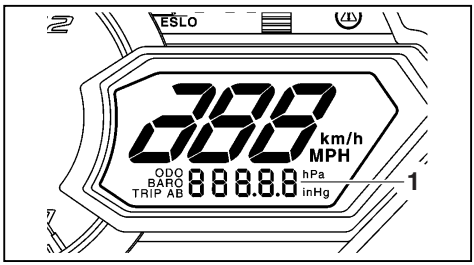
1. “MODE”ボタン
2. “RESET”ボタン
3. “SELECT”ボタン
4. タコメータ
5. 各種警告灯
6. 時計
7. クーラント温度低下インジケータ
8. ハイビームインジケータ
9. 警告灯
10. メータ表示

グリップウォーマーレベルは最初に5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。

要　点

バロメータの「hPa」表示と「inHg」表示を切り替えるには、スノーモビルを停止させた状態で、バロメータモード「BARO」を選択し、“SELECT”ボタンを3秒間以上押し続けてください。

オドメータ、トリップメータ、バロメータのモード



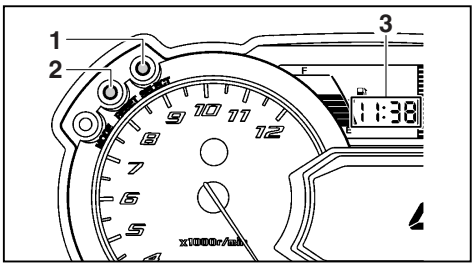
1. オドメータ/トリップメータ/バロメータ

“SELECT”ボタンを押す度に、オドメータモード「ODO」、トリップメータモード「TRIP AおよびTRIP B」、バロメータモード「BARO」の表示が下記の順に切り替わります。
ODO→TRIP A→TRIP B→BARO→ODO
トリップメータをリセットするには、トリップメータの表示時に、“RESET”ボタンを1秒間以上押し続けてください。

時計

時計の設定

1. <時>の表示が点滅するまで“SELECT”ボタンと“RESET”ボタンを同時に押します。



1. “SELECT”ボタン
2. “RESET”ボタン
3. 時計

2. “RESET”ボタンを押して<時>の設定を変更し、“SELECT”ボタンを押します。<分>の表示が点滅し始めます。
3. “RESET”ボタンを押して<分>の設定を変更します。“SELECT”ボタンを押すと時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

要　点

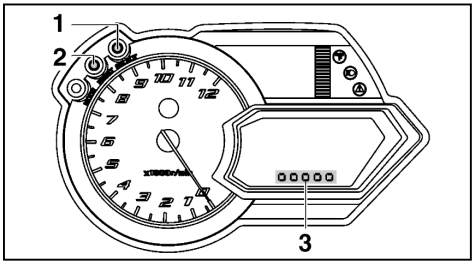
バッテリの接続を外した際は、時計を再設定する必要があります。

ディスプレイの明るさ調整

この機能を使用して、屋外の明るさに合わせてメータディスプレイの明るさを調節できます。

ディスプレイの明るさを調整

1. メインスイッチをOff位置にします。
2. “SELECT”ボタンを押し込み、そのまま保持します。



1. “SELECT”ボタン
2. “RESET”ボタン
3. ディスプレイの明るさレベル

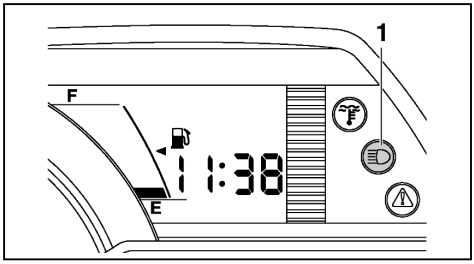
3. メインスイッチをOn位置にし、5秒後に“SELECT”ボタンを放します。
4. “RESET”ボタンを押して希望する明るさを選択します。“SELECT”ボタンを押して明るさを決定すると、通常画面に戻ります。

要　点

手順が完了する前にメインスイッチをOffにしたりエンジンを始動した場合は設定が適用されません。

ハイビームインジケータ

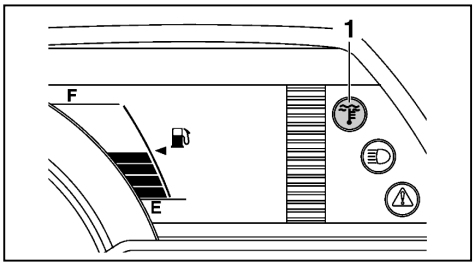
ハイビームインジケータは、ヘッドライトのハイビームをオンにした時に点灯します(ヘッドライトビームスイッチの詳細は、23ページを参照)。



1. ハイビームインジケータ

クーラント温度低下インジケータ

クーラント温度低下インジケータはクーラントの温度が低下した時に点灯し、スノーモビルの暖機運転が必要なことをライダーに伝えます。エンジンを始動し、インジケータが消灯するまで暖機運転を続けてください。



1. クーラント温度低下インジケータ

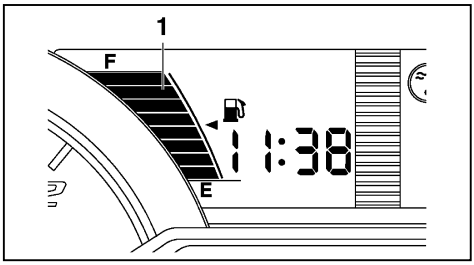
インジケータの消灯後、スノーモビルは正常に運転できます。

要　点

クーラント温度低下インジケータが点灯した時は、スノーモビルを低速で運転してください。エンジンスピードが高すぎる場合、エンジンを保護するためにエンジンの最高速度が低くなります。

燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

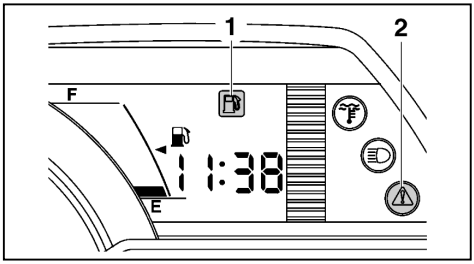
燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータには、フューエルタンク内の燃料の残量表示と、グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示する8セグメントのインジケータがそれぞれ内蔵されています。



1. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

燃料計

燃料計の表示セグメントは、フューエルレベルが低下するに従って“E”に向かって1つづつ消灯していきます。
表示セグメントの点灯が1つだけになった時、フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯します。



1. フューエルレベル警告灯
2. 警告灯

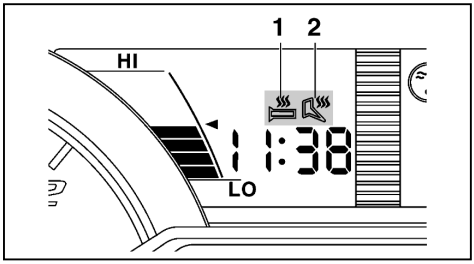
フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、直ちに燃料を給油してください。

要　点

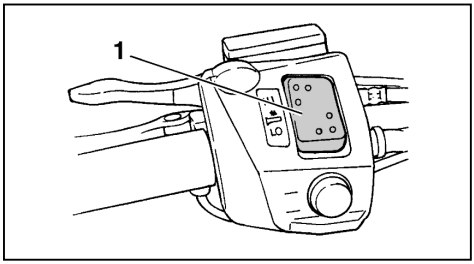
スノーモビルは移動したり傾斜させると燃料計の表示レベルが変化しますので、燃料計の正確な読み取りをおこなうために、スノーモビルを水平な位置に停めてください。

グリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

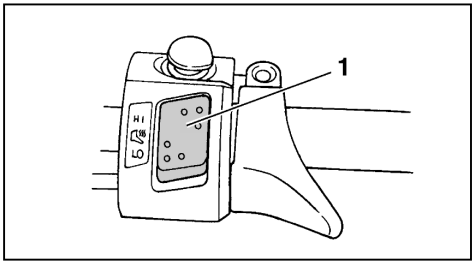
グリップウォーマー調整スイッチを押すと、グリップウォーマーインジケータが点灯し、グリップウォーマーレベルの表示に切り替わります。
サムウォーマー調整スイッチを押すと、サムウォーマーインジケータが点灯し、サムウォーマーレベルの表示に切り替わります。



1. グリップウォーマーインジケータ
2. サムウォーマーインジケータ



1. グリップウォーマー調整スイッチ



1. サムウォーマー調整スイッチ

要　点

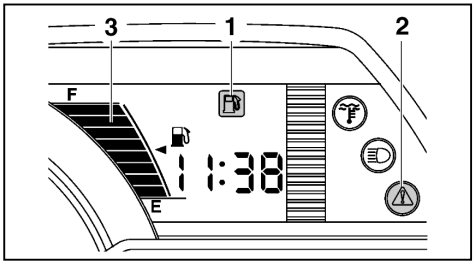
- グリップ/サムウォーマー調整スイッチを離すと、グリップウォーマーレベルを5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。
- グリップ/サムウォーマーの調整値が最大レベルになると、グリップ/サムウォーマーレベルインジケータの一番上のセグメントが1回だけ光ります。グリップ/サムウォーマーの調整値が最少レベルになると、グリップ/サムウォーマーレベルインジケータの一番下のセグメントが1回だけ光ります。
- エンジンを始動した時、グリップ/サムウォーマーレベルはエンジン停止時に選択したレベルに設定されます。

フューエルレベル警告灯

フューエルレベル警告灯と警告灯は、燃料の残量が低下すると点灯します（19ページを参照）。

センサーの機能不良、カプラの接続不良、リード線の断線、またはショートが検出されたときは、スノーモビルに搭載されている自己診断装置により、フューエルレベル警告灯、警告灯、および燃料計の各セグメントが点滅し、ライダーに上記の警告をおこないます。

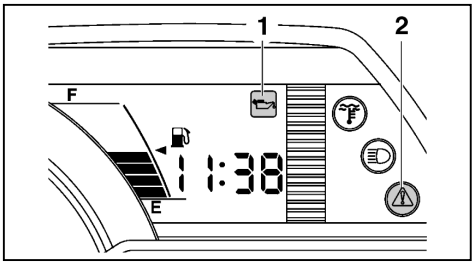
フューエルレベル警告灯、警告灯、および燃料計の各セグメントが点滅したときは、直ちにヤマハ販売店で点検を受けてください。



1. フューエルレベル警告灯
2. 警告灯
3. 燃料計

オイルレベル警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯は、エンジンオイル量が低下した時に点灯します。

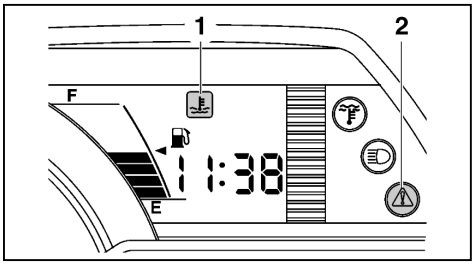


1. オイルレベル警告灯
2. 警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、スノーモビルを水平面に停止させ、1分間ほどアイドリング運転してください。
オイルレベル警告灯と警告灯が消灯した場合、エンジンオイルは足りていますが、量は低下しています。できるだけ早くエンジンオイルを補充してください。
オイルレベル警告灯と警告灯が消灯しない場合は、オイルタンク内のエンジンオイルレベルを確認し（エンジンオイルレベルの点検手順は60ページを参照）、必要に応じエンジンオイルを補充してください。
オイルレベル警告灯と警告灯がさらに点灯したまま消灯しない場合は、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。

クーラント温度警告灯

エンジンがオーバーヒートした場合、クーラント温度警告灯と警告灯が点灯します。このような状態が起こった時は、直ちにエンジンを停止し、エンジンを冷却してから、クーラントリザーバ内のクーラントレベルを確認してください（クーラントレベルの点検方法は、64ページを参照）。



1. クーラント温度警告灯
2. 警告灯

注 意

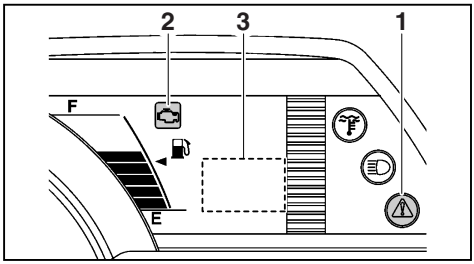
エンジンがオーバーヒートした場合は、運転しないでください。

自己診断装置

当モデルには、各種電気回路用の自己診断装置が搭載されています。
それらの回路のいずれかが故障した場合、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、またメータ表示内でエラーコードがゆっくり点滅します。
エラーコードを記録し、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。

注 意

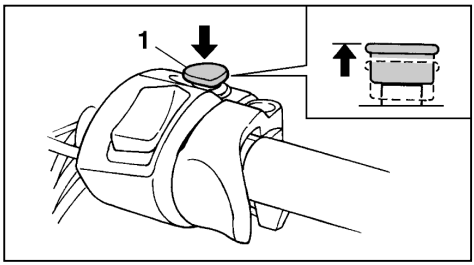
エラーコードが出た場合は、エンジンの損傷を避ける為に必要以上にエンジンを作動しないでください。



1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコード表示

エンジン停止スイッチ

エンジン停止スイッチは緊急時にエンジンを停止させるために使用します。停止スイッチを押すだけで、エンジンは停止します。エンジンを始動するには、停止スイッチを引き戻してから、エンジンの始動手順をおこなってください（エンジンの始動手順は、38ページを参照）。

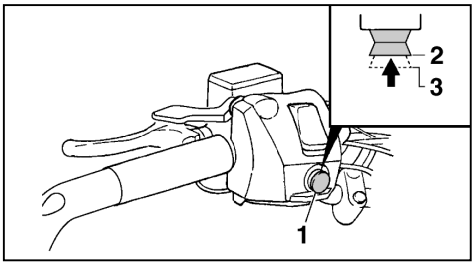


1. エンジン停止スイッチ

初めての走行時に、何回か停止スイッチを使って練習し、緊急時にもすばやく対応できるようにしてください。

ヘッドライトビームスイッチ

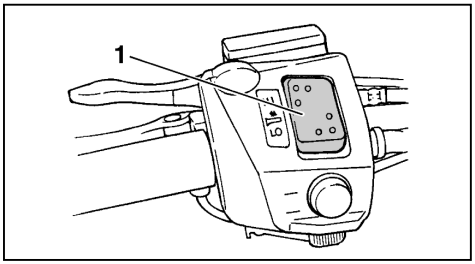
ヘッドライトビームスイッチを押す度に、ヘッドライトの“HI”（ハイ）と“LO”（ロー）が切り替わります。



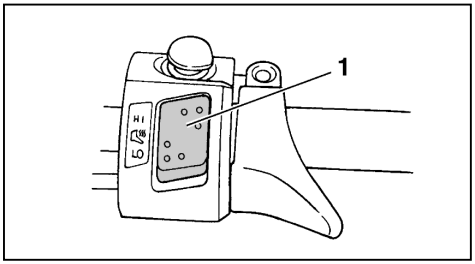
1. ヘッドライトビームスイッチ“LIGHTS”
2. ハイビーム“HI”
3. ロービーム“LO”

グリップ/サムウォーマー調整スイッチ

グリップ/サムウォーマー調整スイッチは、ハンドルバーグリップとスロットルレバーに内蔵されている電気ヒーターをそれぞれ制御します。



1. グリップウォーマー調整スイッチ



1. サムウォーマー調整スイッチ

温度を高くするには、それぞれのスイッチを押して“HI”（ハイ）位置にしてください。温度を下げるには、スイッチを押して“LO”（ロー）位置にしてください。

DCジャック

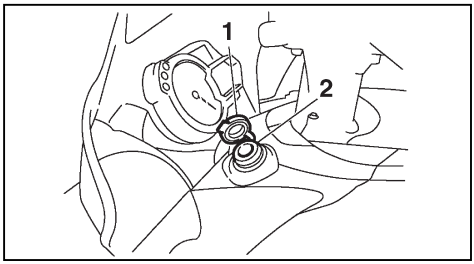
DCジャックは、フロントパネル内に設けられており、各種のアクセサリ用に使用できます。

要　点

DCジャックは、エンジンが回転していない時には使用できません。

DCジャックの使用手順

1. エンジンを始動します。
2. DCジャックキャップを開き、アクセサリの電源プラグをこのジャックに差し込みます。



1. DCジャックキャップ
2. DCジャック

3. DCジャックを使った後は、アクセサリの電源プラグをDCジャックから必ず抜いて、DCジャックキャップを閉じてください。

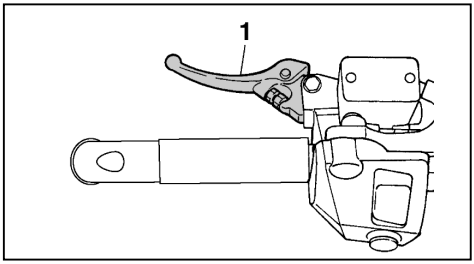
注 意

- **回路に過負荷がかかりヒューズが切れることを避ける為に、DCジャックの最大定格容量を超えるようなアクセサリは、接続しないでください（指定アンペア数については、84ページを参照）。**
- **車用のシガーライターや他のアクセサリで、プラグ部分を加熱させる方式のものは、DCジャックに損傷を及ぼす恐れがありますので、使用しないでください。**

最大定格容量：
DC 12 V, 2.5 A（30 W）

ブレーキレバー

スノーモビルの停止は、駆動系全体にブレーキをかけておこなわれます。
スノーモビルを停止させるには、ブレーキレバーをハンドルバーのグリップ方向に引いてください。



1. ブレーキレバー

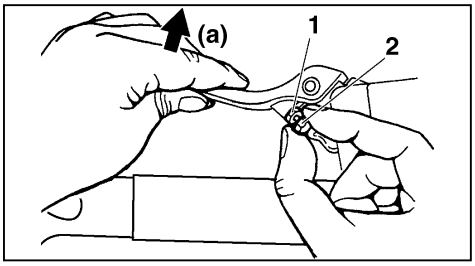
要　点

ブレーキレバーを操作するとブレーキライトが点灯します。

ブレーキレバーにはポジションアジャスタが付いています。

ブレーキレバーポジションの調整

1. ロックナットを緩めます。
2. ブレーキレバーを(a)の方向に軽く押しながら、ブレーキレバーが目的の位置にくるまで調整ボルトを手で締め付けます。

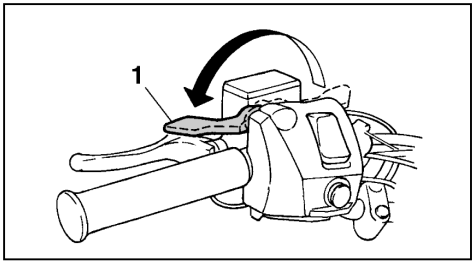


1. ロックナット
2. 調整ボルト

3. ブレーキレバーの調整後、ロックナットをしっかりと締め付けます。

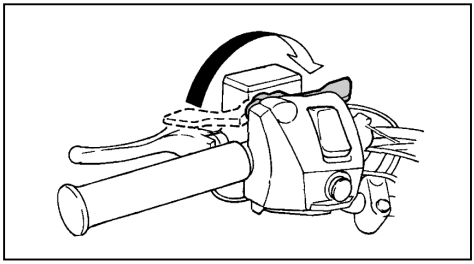
パーキングブレーキレバー

スノーモビルを駐車またはエンジンを始動する場合、パーキングブレーキレバーを左に倒してパーキングブレーキをかけてください。



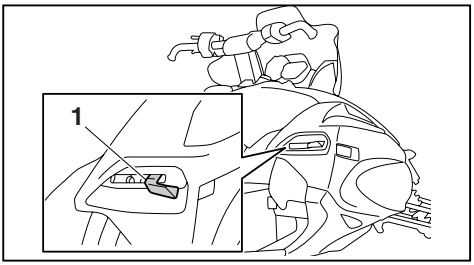
1. パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキを解除するには、パーキングブレーキレバーを右に倒してください。



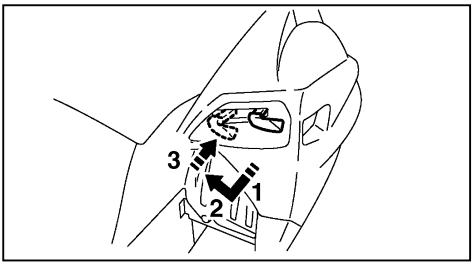
シフトレバー

シフトレバーは、スノーモビルの前進および後退の切替えに使用します。スノーモビルが完全に停止してから、シフトレバーを引き出して“FWD”または“REV”の停止位置までスライドし、手を放してください。



1. シフトレバー

1. 引き出す
2. “FWD”（前進）にスライドする
3. 放す



1. 引き出す
2. “REV”（後退）にスライドする
3. 放す

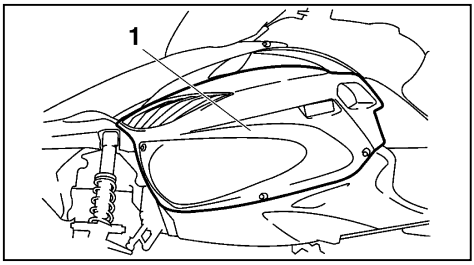
注 意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを“FWD”（前進）から“REV”（後退）に、または“REV”（後退）から“FWD”（前進）にシフトしないでください。そのようなシフトをおこなうと、駆動系が損傷する恐れがあります。

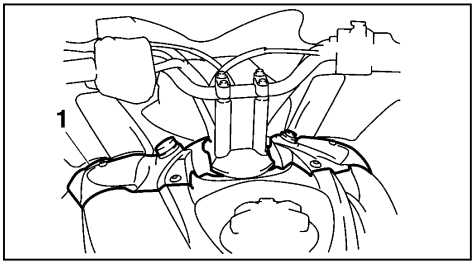
シュラウドとカバー

スノーモビルを運転する前に、シュラウドとカバーを確実に固定してください（取り外しおよび取り付け手順は、51ページを参照）。

1. シュラウド
2. 右側カバー



1. 左側カバー



1. トップカバー

ドライブガード

⚠警 告

- **回転しているVベルトやクラッチに接触した場合、負傷または重傷を負う可能性があります。ドライブガードを外した状態でエンジンを作動しないでください。**
- **スノーモビルを運転する時は、破断したVベルトや他の外れた部品によって、負傷または重傷を負うことがないように、あらかじめドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。**

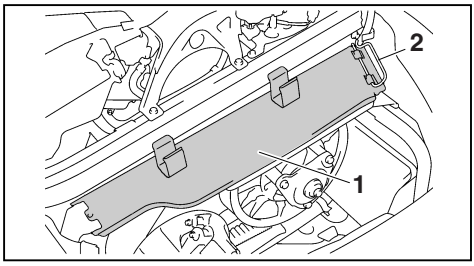
注 意

- **Vベルトを外した状態で、決してエンジンを作動しないでください。クラッチが損傷する可能性があります。**
- **ドライブガードの取り外しまたは取り付けるときには、ウインドシールドを傷つけないように注意してください。**

ドライブガードはVベルトクラッチとVベルトが破損または緩んだときに保護するように設計されています。
ドライブガードは左側カバーの後側にあります（取り外し手順は52ページを参照）。

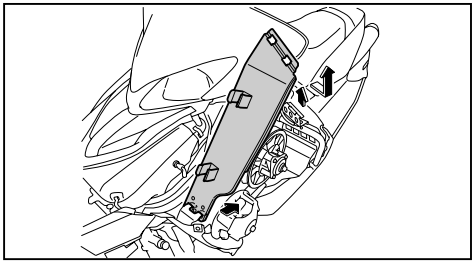
ドライブガードを取り外す場合

1. ドライブガードリヤホルダからドライブガードロッキングピンを引き抜きます。



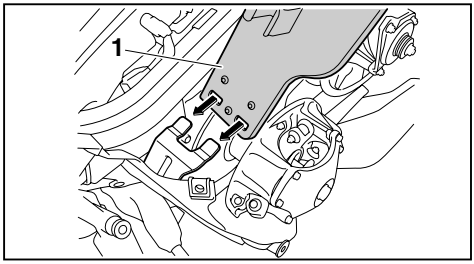
1. ドライブガード
2. ドライブガードロッキングピン

2. ドライブガードの後方を図のように持ち上げ、ドライブガードを後方に引いて外します。



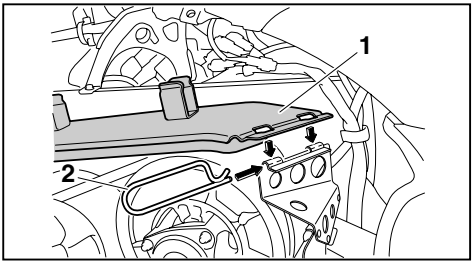
ドライブガードを取り付ける場合

1. ドライブガードフロントホルダのツメをドライブガードの前方にある穴にはめ込みます。



1. ドライブガード

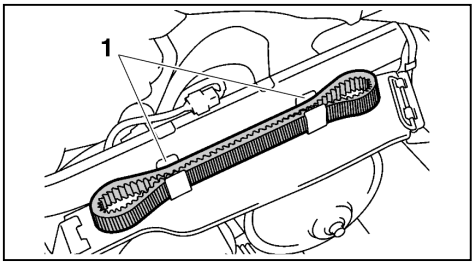
2. 図のようにドライブガード後方の穴とドライブガードリヤホルダのツメの位置を合わせ、ドライブガードロッキングピンをホルダに差し込みます。



1. ドライブガード
2. ドライブガードロッキングピン

Vベルトホルダ

予備のVベルトを緊急時のために用意し、Vベルトホルダに装着してください。



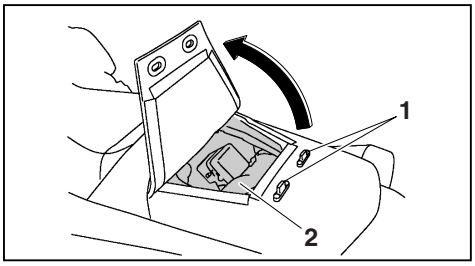
1. Vベルトホルダ

注 意

Vベルトはホルダにしっかりと固定してください。

収納用コンパートメント

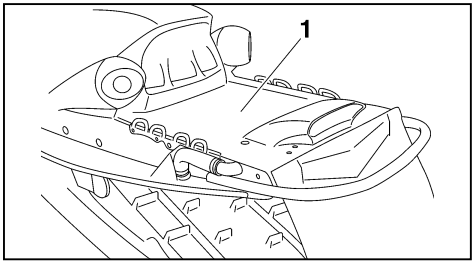
収納用コンパートメントを開いて、ツールキット、スペアパーツ、その他の小物を収納してください。



1. ファスナー
2. 収納用コンパートメント

リヤキャリヤ

リヤキャリヤはスノーモビルの後部に設けられています。



1. リヤキャリヤ

最大荷重限度：10 kg

⚠警 告

スノーモビルを持ち上げる時に、リヤキャリヤを利用しないでください。
スノーモビルが落下して、そばに立つ人が負傷する危険があります。

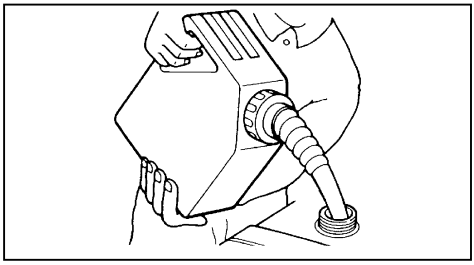
燃料

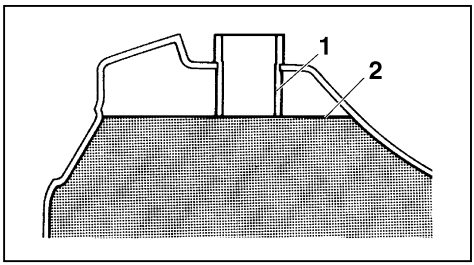
⚠警 告

ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を減らすために、常にこの手順に従って給油してください。

燃料タンクには燃料を充分に給油しておいてください。

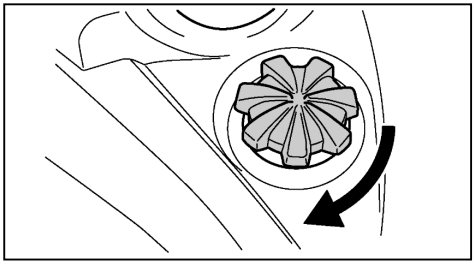
1. 給油の前は必ずエンジンを切り、スノーモビルに誰も乗っていない事を確認してください。喫煙しながらあるいは火花、直火または給湯器や衣類乾燥機等、発火元のある所では決して給油しないでください。
2. 燃料を入れすぎないようにしてください。液面が燃料タンクのフィラーチューブの底を越えないようにしてください。温度の上昇によって燃料は膨張する為、入れすぎた場合はエンジンや太陽からの熱で溢れることがあります。





1. フィラーチューブ
2. 給油限度

3. こぼれたガソリンはすぐに拭き取ってください。
4. 燃料タンクキャップを時計回りにしっかりと閉めてください。



⚠警 告

ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには充分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、直ちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。

推奨燃料：
　無鉛ガソリン
燃料タンク容量：
　38.3 L

注 意

- **給油時に、雪や氷が燃料タンクに入らないよう気をつけてください。**
- **燃料タンクには指定の無鉛ガソリンを給油してください。**

サスペンション

サスペンションはライダーの好みに応じて調整することができます。たとえば柔らかい設定にすると乗り心地がよくなり、固い設定にすると特定のタイプの地形や走行条件でハンドリングや制御がいっそう正確におこなえるようになります。
サスペンションの調整に慣れていない方は、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。

⚠ 警 告

当ショックアブソーバには高圧の窒素ガスが封入されています。誤った使い方をすると、破裂して、負傷や物的な損害を引き起こす恐れがあります。

- **ショックアブソーバを開けたり、改造しないでください。**
- **ショックアブソーバを火中に投じたり、高温の熱源に近づけないでください。爆発する恐れがあります。**
- **ショックアブソーバを変形させたり、損傷を与えないようにしてください。**
- **摩耗したり損傷したショックアブソーバは、ユーザご自身で廃棄せず、ヤマハ販売店にお持ちください。**

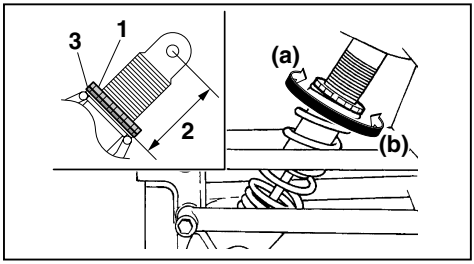
フロントサスペンションの調整

⚠ 警 告

左右のフロントサスペンションのスプリングプリロードは同一設定にしなければなりません。同一設定でなかった場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

スプリングプリロードは、スプリングプリロード調整ナットを回して調整することができます。
スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

1. ロックナットを緩めます。
2. サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを(a)方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
   サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを(b)方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. ロックナット
2. セット長A
3. スプリングプリロード調整ナット

要　点

スプリングプリロード設定値はイラストにあるセット長Aで決められます。セット長Aが長いほどスプリングプリロードは高くなります。
セット長Aが短いほどスプリングプリロードは低くなります。

スプリングプリロードの設定：
　最小位置（ソフト）：
　　134.6 mm
　標準位置：
　　134.6 mm
　最大位置（ハード）：
　　144.6 mm
* セット長Aは、スプリングプリロード調整ナットを1回転させると、約1.5 mm変化します。

3. ロックナットを規定のトルク値で締めます。

注 意

ロックナットはスプリングプリロード調整ナットにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締めます。

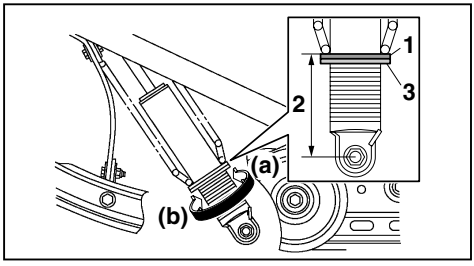
締め付けトルク：
ロックナット：
42 Nm（4.2 kgf・m）

リヤサスペンションの調整

スプリングプリロードはセンターショックアブソーバのスプリングプリロード調整ナットとリヤトーションスプリングのスプリングプリロードアジャスターを回すことで調整できます。
スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

センターショックアブソーバ

1. ロックナットを緩めます。
2. サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを(a)方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
   サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロード調整ナットを(b)方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. スプリングプリロード調整ナット
2. セット長A
3. ロックナット

要 点

スプリングプリロード設定値はイラストにあるセット長Aで決められます。セット長Aが長いほどスプリングプリロードは高くなります。
セット長が短いほどスプリングプリロードは低くなります。

スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）：
115.5 mm
標準位置：
116.5 mm
最大位置（ハード）：
126.5 mm
* セット長Aは、スプリングプリロード調整ナットを1回転させると、約1.5 mm変化します。

3. ロックナットを規定のトルク値で締めます。

注 意

ロックナットはスプリングプリロード調整ナットにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締めます。

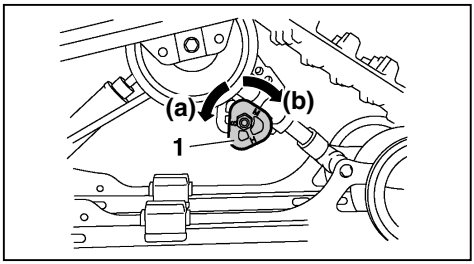
締め付けトルク：
ロックナット：
42 Nm（4.2 kgf・m）

リヤトーションスプリング

⚠警 告

左右のスプリングプリロードは同一設定にします。同一設定でない場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

サスペンションをハードにする場合は、スプリングプリロードアジャスタを(a)方向に回してスプリングプリロードを増加させます。
サスペンションをソフトにする場合は、スプリングプリロードアジャスタを(b)方向に回してスプリングプリロードを減少させます。



1. スプリングプリロードアジャスタ

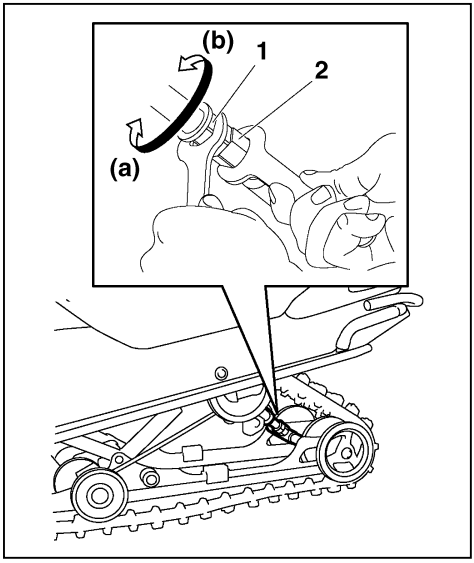
スプリングプリロードの設定：
最小位置（ソフト）：
S
標準位置：
M
最大位置（ハード）：
H

コントロールロッドの調整

⚠警 告

左右のコントロールロッド調整ナットは同じ位置に設定しなければなりません。同一設定でなかった場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

ストローク量は、コントロールロッド調整ナットを回して調整することができます。
1. コントロールロッド調整ナットをしっかり保持しながら、ロックナットを緩めてください。

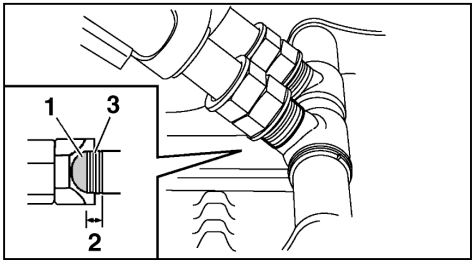


1. ロックナット
2. コントロールロッド調整ナット

2. ストローク量を増やすには、コントロールロッド調整ナットを(a)方向に回し、ストローク量を減らすには(b)方向に回してください。

⚠ 警 告

コントロールロッドに赤色のペイントで示されている最大範囲を超えて、コントロールロッドを調整しないでください。破損し、事故やケガにつながることがあります。



1. コントロールロッドの赤色ペイントの部分
2. 調整可能な範囲
3. 標準位置

3. コントロールロッド調整ナットを所定の位置で保持したまま、ロックナットを締めてください。

注 意

ロックナットはコントロールロッド調整ナットにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締めます。

ロックナットの締め付けトルク：
25 Nm（2.5 kgf・m）

使用前の点検

スノーモビルを安全で快適に使用いただくため、使用前の点検を必ず行ってください。取扱説明書に書かれている点検整備方法と頻度に従ってください。

⚠警 告

使用前の点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。異常が認めたれたときは、使用しないでください。取扱説明書に書かれている方法で整備しても異常が直らない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

使用前の点検リスト

点検項目	点検内容
燃料	• 燃料の量を点検する。 • 必要に応じ給油する。 • 燃料系統の漏れの有無を点検する。
エンジンオイル	• エンジン内のオイルレベルを点検する。 • オイルレベルが低い場合は、推奨エンジンオイルを規定レベルまで補給する。 • エンジンオイルの漏れの有無を点検する。
クーラント	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じクーラントを補給する。
Vベルト	• 摩耗、損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ、交換する。
ドライブガード	• ドライブガードが確実に固定されているか確認する。 • ドライブガードの取り付け部に損傷がないか点検する。
ブレーキ	• 作動を点検する。 • ブレーキの効きがソフトまたはスポンジを踏んだような感じの場合は、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを依頼する。 • ブレーキパッドの摩耗の有無を点検する。 • 必要に応じ、ブレーキパッドを交換する。 • マスターシリンダ内のブレーキ液レベルを点検する。 • 必要に応じ推奨ブレーキ液を規定レベルまで補充する。 • 油圧系統の漏れの有無を点検する。
エアフィルタ	• エアフィルタエレメントの下側に残雪がないか、点検する。 • 残雪を取り除く。
ツールキットと推奨装備	• 適切な位置に収納されているか点検する。
シュラウドとカバー	• シュラウドとカバーが確実に取り付けられていることを確認する。
スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスキーまたはスキーランナーを交換する。
ドライブトラック	• たわみ量を点検する。 • 必要に応じ調整する。 • 摩耗および損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でドライブトラックを交換する。
スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスライドランナーを交換する。

点検項目	点検内容
ステアリング	• 過度の遊びがないか点検する。
ストラップ	• 損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。
ライト、シグナル、 スイッチ類	• 作動を点検する。 • 必要に応じ修理/交換する。
スロットルレバー	• 作動がスムーズで、スロットルレバーから手を離すと、スプリングの力で元の位置に戻るか確認する。
スロットルオーバーライド システム（T.O.R.S.）	• T.O.R.S.が適切に作動するか点検する。 • T.O.R.S.が作動不良の場合は、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検を依頼する。

操作方法

スノーモビルを運転する前に取扱説明書をよく読み、運転に関するコントロール部位やその機能を充分に理解してください。コントロール方法や機能について不明な点があればヤマハ販売店にご相談ください。

⚠警 告

コントロール方法について理解が不充分な場合、操縦を誤り、事故やケガをすることがあります。

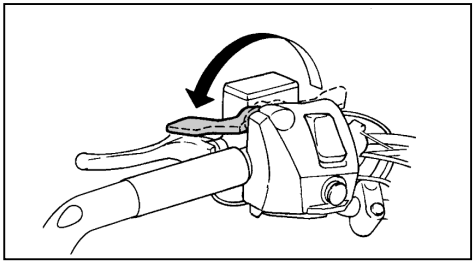
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

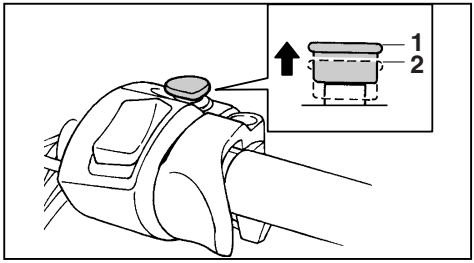
- エンジンが始動しているときにエンジンオイルの油圧に異常をきたすと、エンジンを停止させます。この機構が一旦働くと、エンジン停止の制御が継続されるため、スタータスイッチを操作してもスタータモータは回転しますが、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリ上がりの原因になりますので、このような状態になった場合は**スノーモビルを平坦な場所に止め、メインスイッチを一旦Offにして、再度Onにするリセット操作**をしてください。リセット操作をしてもエンジンが始動しない、もしくは始動してもすぐに停止する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けて下さい。
- エンジンオーバーヒート防止装置は、エンジンのアイドリング回転時にオーバーヒートを防止する装置です。エンジンのアイドリング回転が3分以上続き、クーラントの温度が100℃を超えた場合、オーバーヒートを防止するためにエンジンは自動的に停止します。エンジンの停止後、再び始動することが可能です。

エンジンの始動

1. パーキングブレーキをかけます。



2. エンジン停止スイッチがオン位置にあることを確認してください。エンジン停止スイッチがオフ位置の時は、スタータモータを始動させることができません。

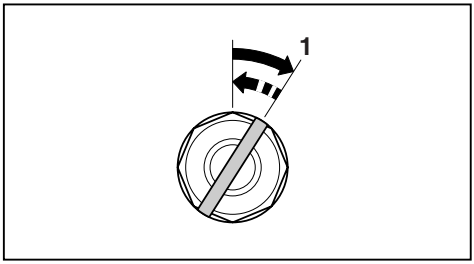


1. オン位置
2. オフ位置

3. メインスイッチをStart（始動）位置にし、エンジンが始動したら手を離します。

注 意

- **エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。**
- **エンジンが始動しなかったらメインスイッチから手を離し、数秒まって再度メインスイッチを入れてください。バッテリの消耗を防ぐため、メインスイッチを入れる時間はなるべく短くしてください。メインスイッチを入れてエンジンを回す時間は、1回につき10秒以内にしてください。**



1. Start（始動）位置

4. エンジンの回転が安定するまで暖機運転します。
5. 運転を始める前に、クーラント温度低下インジケータが消灯したのを確かめてください（クーラント温度低下インジケータについては、18ページを参照）。

慣らし運転

積算走行距離が500 kmまでの慣らし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。このため、以下の説明に充分目を通し、その指示に従ってください。

エンジンは新品の状態のため、最初の500 kmまでは過度な負荷をかけないでください。エンジン内のさまざまなパーツが相互に摩耗と研磨を繰り返して、正しい作動すき間を保つようになります。この慣らし運転の期間は、フルスロットル操作を長く続けないようにし、またエンジンがオーバーヒートするような条件を避ける必要があります。

新しいスノーモビルを初めて運転する場合

エンジンを始動し、15分間ほどアイドリング運転してください。

0～160 km間

6000 r/min以上の回転を長時間続けないでください。

160～500 km間

8000 r/min以上の回転を長時間続けないでください。

500 km以降

慣らし運転の期間が終わり、スノーモビルを普通に運転することができます。

注 意

- **800 km走行した時点で、エンジンオイルを交換し、オイルフィルタカートリッジを交換してください。**
- **エンジンの慣らし運転期間中にエンジンで何らかのトラブルが発生した場合は、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。**

スノーモビルに乗る

スノーモビルをよく知ろう

⚠警 告

- **運転者は常に両手でハンドルバーをにぎっていてください。**
- **フットレストの外に足を絶対に出さないでください。**
- **スノーモビルとそのコントロール類に充分習熟するまでは、高速走行をしないでください。**

スノーモビルはライダーが体でコントロールする乗り物で、ライディングポジションとバランスがスノーモビルを操縦する2大要素です。
スノーモビルに乗るには、長時間にわたる実践で技量を習得する必要があります。
高度なライディングを試す前に、基本的な技能を確実に習得してください。
新しくお求めになったスノーモビルを運転するのは楽しく、時間を忘れてしまうでしょう。しかし楽しく安全に乗るには充分な技量が必要で、その技量を身につけるにはスノーモビルの操作に習熟することが不可欠です。スノーモビルを運転する前に、まず「取扱説明書」を熟読し、コントロール類の操作をよく理解してください。
特に8ページ目に記載された「安全にご使用するにあたって」には注意を払ってください。
スノーモビルの車体に貼られた警告ラベルと注意ラベルには、すべて目を通してください。また同梱の「スノーモビル安全ハンドブック」にも目を通してください。

スノーモビルの乗り方を学ぶ

スノーモビルに乗る前に、36ページのリストにある使用前の点検を必ずおこなってください。スノーモビルの点検に短時間を費やしても、安全性やスノーモビルの信頼性が高まることで報われます。ライダーの体温を保ち、また事故が起こった場合に怪我をしないように、常に適切な服装を着用してください。
たとえ充分なライディング経験があっても、スノーモビルをお買い求めの際にはまず低速運転から慣れてください。スノーモビルのハンドリングや性能特性を完全に把握するまでは、スノーモビルを最高性能で運転しないでください。
初心者ライダーは、広く平坦な雪上で、スノーモビルに慣れるようにしてください。
障害物や他のスノーモビルなどが走行しない場所を選ぶようにしてください。スロットルとブレーキのコントロール方法を練習し、旋回の技術を習得してから、さらに難易度の高い地形にトライするようにしてください。
エンジンをかける時はあらかじめパーキングブレーキをかけ、38ページの指示に従ってください。エンジンの暖機運転が完了すると、走行可能な状態になります。

発進、加速

1. エンジンをアイドリングさせたまま、パーキングブレーキを解除します。
2. スロットルをゆっくりとスムーズに開けます。
   Vベルトクラッチがつながり、発進して加速します。

⚠警 告

スノーモビルの始動時には、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいは小石などがはねることがあり、危険です。

ブレーキをかける

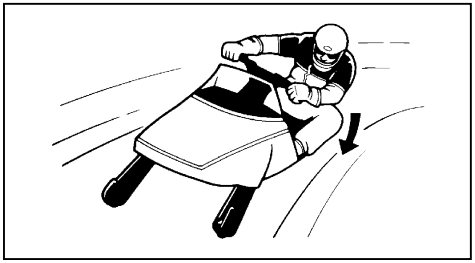
⚠警 告

- **氷や圧雪などでは、通常の雪面より停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。**
- **ブレーキのかけ方が悪いとドライブトラックがトラクション（グリップ力）を失い、制御能力が低下し、事故を起こす可能性が高くなります。**

減速または停止する時は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけます（急にかけてはいけません）。

曲がる

大部分の雪面では「体を使って」曲がることが大切です。
カーブに近づくに従って減速し、曲がりたい方向にハンドルバーを徐々に向けます。同時に曲がる方向のフットレストに体重をかけ、上体を内側に傾けます。



障害物のない広い平らな場所で、この手順を低速で何度も練習してください。いったんこのテクニックが身についたら、もっと高速できついカーブでも応用できるはずです。
スロットルの急な開閉、強すぎるブレーキ操作、間違った体の動かし方、カーブに対して速すぎる速度など、不適切な運転方法はスノーモビルの転倒の原因となります。
カーブでスノーモビルが転倒しかけたら、体をさらに内側に傾けてバランスを取り戻してください。必要ならスロットルをゆっくり戻すか、またはハンドルバーを外側に切り戻してください。

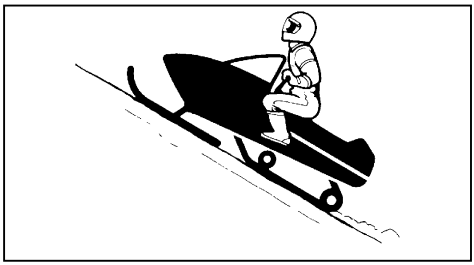
重要：
スノーモビルの運転に充分習熟するまでは、高速走行をしないでください。

坂を上る

⚠警 告

- **坂での運転は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。**
- **スキルが上達するまで難しい急な坂では運転しないでください。**

まず最初は傾斜のゆるやかな坂で練習します。スキルが上達して初めて、もっと難しい上り坂を練習してください。坂に近づくにつれて加速し、上り坂になる前にスロットルを戻してトラックのすべりを防止します。体重は常に坂の上側に向けてかけておくことが大切です。体を前に傾けて坂を真っ直ぐに上ります。坂の勾配がきつくなるとフットレストに足を置いて立ち、ハンドルバーにかぶさるように体を前に倒します(「勾配を横断する」も参照)。



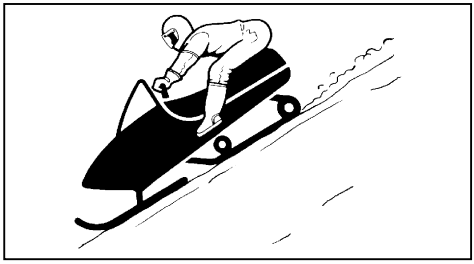
坂の頂上に近づくにつれて減速し、頂上の向こう側に障害物、急な下り坂、他の乗り物や人を見つけた場合に備えます。途中で坂を上れなくなったら、トラックをスピンさせてはいけません。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけます。スノーモビルのリヤを引っぱって坂の下側にスノーモビルを向けます。次いで坂の上側からスノーモビルに乗ります。エンジンを再始動し、パーキングブレーキを解除し、坂を下ります。

坂を下る

⚠警 告

下りでブレーキをかける時には充分に注意してください。ブレーキを強くかけ過ぎるとドライブトラックがロックし、制御不能になります。

坂を下る時は最低速度を保ってください。下っている間クラッチをつないでおくために必要な量だけのスロットルを開けることが大切です。こうすればエンジンの圧縮行程がスノーモビルの減速に役立ち、またスノーモビルが惰性で坂を下ることも防げます。またブレーキも軽く頻繁にかけてください。

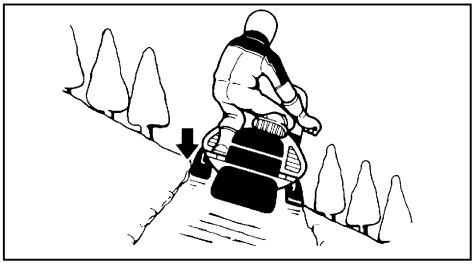


勾配を横断する

⚠警 告

サイドヒル（丘の横側）での運転は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。ゆるやかな坂で、スキルが上達するまで難しい急な坂では運転しないでください。

勾配を横断するには、体重を適切な位置にかけ適切なバランスを保つ必要があります。勾配を横断する時は体重が坂の上側にかかるように体を傾けます。坂の下側に位置する膝をシートに置き、坂の上側に位置する足をフットレストに置く姿勢がよいでしょう。こうすれば必要に応じて体重移動を楽におこなうことができます。



雪や氷は滑りやすいので、スノーモビルが横向きに滑った時に備えるようにしてください。そのような場合は、滑った方向に―その先に障害物がなければ―ハンドルを切ります。適切なバランスを回復したら、元の方向に徐々にハンドルを戻します。
曲がる時スノーモビルが転倒しかけた場合は、坂の下側にハンドルを切ってバランスを取るようにしてください。

⚠警 告

バランスが保てずスノーモビルが転倒しかけた場合は、直ちにスノーモビルから体を離し、坂の上側に避難してください。

氷の上、凍結面

⚠警 告

氷の上または凍結面で運転しなければならない場合は、ゆっくりと慎重に走行してください。
急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。ハンドルの動きは最小限にしてください。制御不能になり、転倒する危険があります。

氷の上や凍結面での運転は非常に危険になりがちです。転回、停止、発進のためのトラクションが雪よりはるかに小さいためです。

圧雪面

圧雪の上は、新雪と比べスキーとドライブトラックのトラクションが小さくなるため操縦がより困難です。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。

雪、氷以外の表面上での運転

雪、氷以外の表面ではスノーモビルを運転しないでください。そのような条件下での運転はスキーランナー、ドライブトラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり摩耗を早めます。次のような表面でのスノーモビルの運転は決しておこなわないでください。

- 泥
- 砂
- 岩
- 草
- 雪のない路面

この他、次のような表面も、ドライブトラック、スライドランナーを長持ちさせるため運転を避けてください。

- 鏡氷面
- 多量の泥と砂が混ざった雪

上記の表面はみなドライブトラックとスライドランナーに関して一つの共通点があります。それは潤滑能力がほとんどない、あるいは全くない、ということです。ドライブトラックとスライドレール系全体はスライドランナーとスライドメタルとの間の潤滑（雪または水）を必要します。潤滑がおこなわれないとスライドランナーは短期間で摩耗し、ひどい場合には文字通り溶けてなくなり、ドライブトラックに損傷や故障が発生します。

またトラクション増強のためのスタッドや滑り止めなども、トラックの損傷、故障をいっそうひどくする可能性があります。

⚠ 警 告

ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

- **スノーモビルを運転する時は必ずあらかじめドライブトラックを点検し、損傷、調整不良がないか調べてください。**
- **ドライブトラックが損傷していた場合スノーモビルは運転しないでください。**

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

ドライブトラックを長持ちさせるには

トラックのテンション（張力）

最初のならしの期間、新しいドライブトラックはなじむ過程で伸びが早くなりがちです。トラックのテンションとアライメントの調整を欠かさず頻繁におこなってください（調整手順は、76ページを参照）。緩んだトラックは（ドライブスプロケットとの間で）スリップし、外れ、あるいはサスペンション部品を噛み込み、重大な損傷をもたらす恐れがあります。ドライブトラックはきつく張り過ぎないでください。トラックとスライドランナーとの摩擦が増大し、両方の部品の摩耗が早まります。
またサスペンション部品への負荷が過大になり、故障の原因となります。

雪が少ない場合

ドライブトラックとスライドランナーは雪と水で潤滑・冷却されます。これら部品の過熱を防ぐため、雪が極端に少ない凍結路や、凍結した湖、河で長時間高速走行することは避けてください。
トラックの内部が過熱によって弱くなり、故障や損傷の原因となります。

オフトレール走行

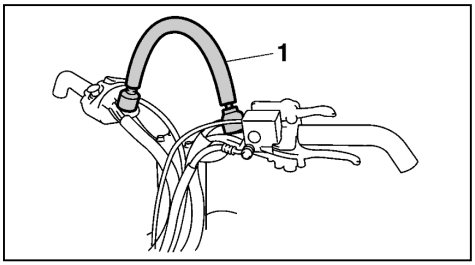
積雪が充分でない限りオフトレール走行は避けてください。岩、倒木など、堆積物を充分に覆う走行面ができるには、一般に1メートル程度の積雪が必要です。積雪が不充分な場合、ドライブトラックへの衝撃による損傷を防ぐためトレールの外を走行しないでください。

スタッドトラック

スタッド付きのトラックは一般に短寿命です。ドライブトラックにスタッドホールを開けるため内部の繊維が切断され、トラックの強度が低下するためです。
ヤマハはトラックへのスタッド装着を推奨しません。

ストラップ

ストラップは、経験のあるライダーがサイドヒル（丘の斜面）を走る時のアシスト用にのみ使用するものです。



1. ストラップ

⚠警 告

- **ストラップは、サイドヒル（丘の斜面）を走る時に、斜面の上側に体重を移動してバランスを取るために、ライダーのグリップポイントとして使用してください。ストラップが必要なほどの急勾配の斜面を走行するのは経験のあるライダーに限られます。**
- **斜面を走行する時、ライダーの右手はハンドルバーの右グリップを掴み、左手はストラップを掴んで体重を斜面の上側に移動してバランスを取るようにしてください。**
- **ストラップを使う時は、注意して運転してください。ストラップを持ちながらの急加速や急減速は避けてください。**
- **スノーモビルを持ち上げるためにストラップを使用しないでください。**
- **ストラップを荷物やアクセサリの固定用に使用しないでください。**

走行

⚠警 告

スノーモビルを運転する前に、必ず本書の8ページの「安全にご使用するにあたって」と、40ページの「スノーモビルに乗る」の項をお読みください。

要　点

スノーモビルを運転する前に、エンジンの暖機運転をおこなってください。

⚠警 告

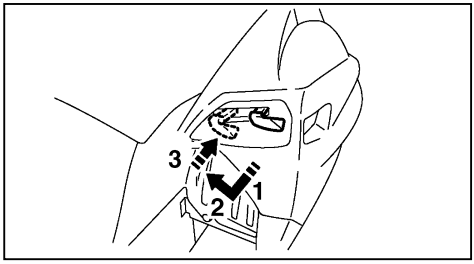
- **シフト操作は必ず、スロットルレバーを完全に放しスノーモビルが完全に停止した状態でおこなってください。**
- **シフトレバーは必ず“FWD”または“REV”の停止位置までスライドさせてください。またアイドリング回転時のみおこなってください。**
- **後退時は、スノーモビルの後方に障害物がないことを確認してください。後方に注意してください。**
- **後退する時は速度を落とし、急転回を避けてください。**

1. 目的の走行位置を選択するには、シフトレバーを引き出して“FWD”（前進）または“REV”（後退）の停止位置までスライドし、手を放してください。

注 意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを“FWD”（前進）から“REV”（後退）に、または“REV”（後退）から“FWD”（前進）にシフトしないでください。そのようなシフトをおこなうと、駆動系が損傷する恐れがあります。

1. 引き出す
2. “FWD”（前進）にスライドする
3. 放す

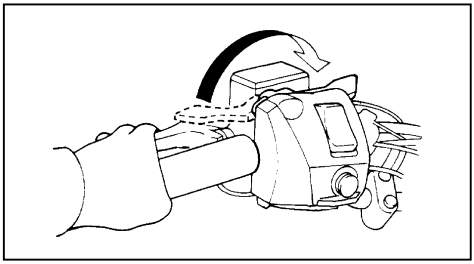


1. 引き出す
2. “REV”（後退）にスライドする
3. 放す

要　点

シフトレバーが後退の時は、リバースブザーが鳴ります。

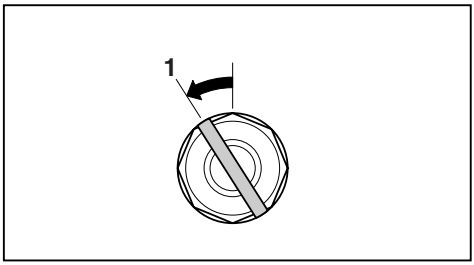
2. パーキングブレーキレバーを右に倒して、パーキングブレーキを解除します。



3. スロットルレバーをゆっくり押し込んで、スノーモビルを動かします。
4. 曲がりたい方向にハンドルバーを回します。
5. スノーモビルを停止するには、ブレーキレバーを握ります。
6. パーキングブレーキレバーを左に倒して、パーキングブレーキをかけます。

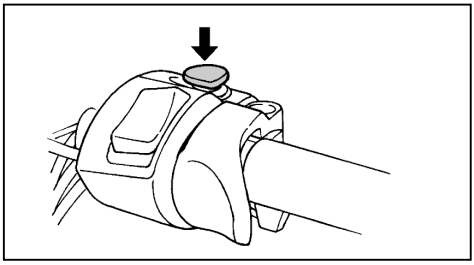
エンジン停止

- エンジンを停止するには、メインスイッチをOff（オフ）位置にしてください。



1. Off（オフ）位置

- エンジンを緊急停止させるには、エンジン停止スイッチを押してください。



輸送

スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する時は、損傷を避けるため次の注意事項を守ってください。

- スノーモビルを幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、スノーモビルにカバーをかけしっかりと固定してください。カバーは専用設計のものが最善です。カバーをかければ冷却用空気の取り入れ口に異物が入らず、道路の小石がはねてスノーモビルを傷つけることも防げます。
- 道路に融雪剤が撒かれた区域を幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、オイルやその他防護剤を金属製サスペンションの表面に薄く塗ってください。腐食を防ぐ助けになります。目的地に着いたなら必ずスノーモビルを洗浄し、腐食性の融雪剤をきれいに落としてください。

定期点検

定期的な点検、調整そして給油脂を行う事によって、スノーモビルを安全で快適な状態に保つことができます。安全対策はオーナーまたはオペレーターの義務です。点検、調整そして給油脂において最も大切なポイントは以下のページを参照してください。

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検/整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**

⚠警 告

整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止してください。

排ガス制御装置の定期点検チャート

“*”印の項目については特殊な工具、データ、技術を要する為ヤマハ販売店にご依頼ください。

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	シーズン毎 または 4000 km 毎 (200時間)
	スパークプラグ	• 状態を点検する。 • スパークプラグギャップの調整と清掃。 • 必要に応じ交換する。		●
*	バルブクリアランス	• エンジンの冷間時に、バルブクリアランスの点検と調整をおこなう。	40000 km毎	
*	クランクケース・ブリーザーシステム	• ブリーザーホースのひび割れ、損傷の有無の点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	燃料系統	• ホースのひび割れ、損傷の有無を点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	アイドリング回転数	• アイドリング回転数の点検と調整。	●	●
*	燃料噴射（FI）	• 同期調整。	●	●
*	排気系統	• 漏れの有無を点検。 • 必要に応じ、増し締めまたはガスケットを交換する。		●

一般的な点検と潤滑チャート

	点検項目	点検内容	初期点検 1ヵ月 または 800 km 走行後 （40時間）	日常点検 シーズン毎 または 4000 km 毎 （200時間）
	エンジンオイル	• 交換する（抜く前にエンジンを暖機すること）。	●	●
*	エンジンオイルフィルタカートリッジ	• 交換する。	●	日常点検 20000 km毎
*	冷却システム	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じ、冷却システムのエア抜きをする。		●
*	プライマリークラッチ、セカンダリークラッチ	• つながり具合とシフト速度を点検する。 • 必要に応じて調整。		●
			走行高度が変わった時。	
		• シーブアセンブリの摩耗、損傷の有無を点検する。 • プライマリーのウェイト、ローラー、ブッシングの摩耗を点検。 • セカンダリーのランプシューズ、ブッシングの摩耗を点検。 • 必要に応じ交換する。		●
		• 指定グリースを給脂する。		●
*	ドライブチェーン	• チェーンのたわみ量を点検する。 • 必要に応じて調整。	使用開始から500 km走行後、以後800 km走行毎。	
*	ドライブチェーンオイル	• オイルレベルを点検する。	●	●
		• 交換する。		●
*	ブレーキ、パーキングブレーキ	• 遊びを調整し、必要に応じパッドを交換する。		●
		• ブレーキ液を交換する。	当チャートの注釈を参照。	
	コントロールケーブル	• 作動がスムーズか確認する。 • 必要に応じ、給脂する。		●
*	ディスクブレーキの取り付け状態	• 過度の遊びがないか点検する。 • 必要に応じ、指定のグリースをシャフトに給脂する。	1600 km毎	
*	エクストロバートドライブスプロケット	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。	●	●
*	スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●
*	スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	シーズン毎 または 4000 km 毎 (200時間)
*	ステアリング系	• スキーのトーアウトを点検する。 • 必要に応じて調整する。		●
*	ステアリングベアリング	• ベアリングアセンブリのがたの有無を点検する。 • 指定グリースを給脂する。		●
*	スキー、 フロントサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
*	リヤサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
*	ドライブトラック	• ドライブトラックのたわみ量を点検する。 • 必要に応じて調整する。	使用開始から500 km走行後、以後800 km走行毎。	
	取付金具、ボルト類	• すべてのナット、ボルトおよびスクリュが、正しいトルクで締め付けられているか確認する。 • 必要に応じ増し締めする。	●	●
*	バッテリ	• バッテリの状態を点検する。 • 必要に応じ充電する。		●

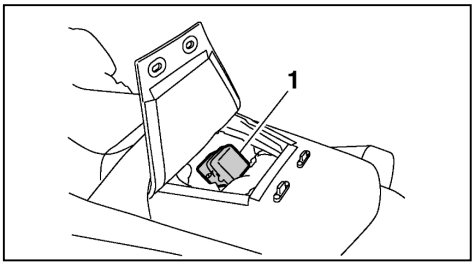
要　点

ブレーキ系統：

- マスターシリンダまたはキャリパーシリンダを分解した時は、ブレーキ液を必ず交換してください。
  通常はブレーキ液レベルを点検し、必要に応じブレーキ液を補充してください。
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシールは、2年毎に交換してください。
- ブレーキホースは4年毎に、またはひび割や損傷が見つかった場合は直ちに交換してください。

ツールキット

ユーザー用ツールキットには、通常の点検整備や簡単な修理に充分な工具類が入っています。この他に、ナットやボルトを正しいトルクで締め付けるためにトルクレンチも必要です。



1. ツールキット

注 意

エンジンを始動する前に、ツールキットがホルダにきちんと納められ、確実に固定されていることを確認してください。

要　点

トルクレンチが必要な整備をトルクレンチなしでおこなった場合は、整備後にスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んでトルク点検を依頼し、必要ならトルクの調整を依頼してください。

シュラウドとカバーの取り外しと取り付け

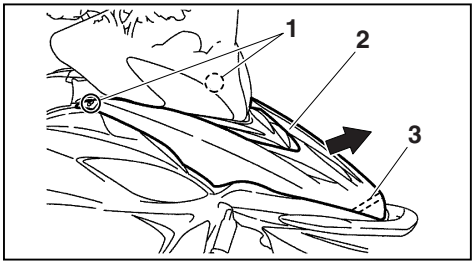
⚠警 告

運転前にシュラウドとカバーがしっかり固定されている事を確認してください。シュラウドやカバーに緩みがあると、動いてコントロールを失う原因になります。

シュラウド

シュラウドの取り外しかた

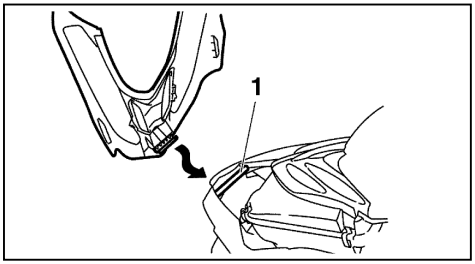
ファスナーを緩め、シュラウドをゆっくり持ち上げます。その後、シュラウドステーからシュラウドのフックを外します。



1. ファスナー
2. シュラウド
3. シュラウドステー

シュラウドの取り付けかた

シュラウドの端をシュラウドステーのフックに掛け、シュラウドをゆっくりと元の位置まで下げます。その後、ファスナーを締め付けます。

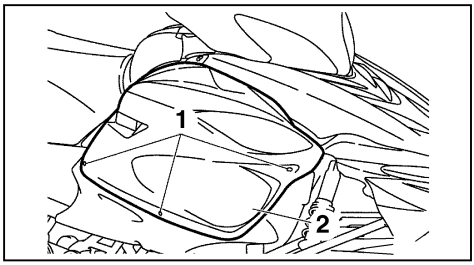


1. シュラウドステー

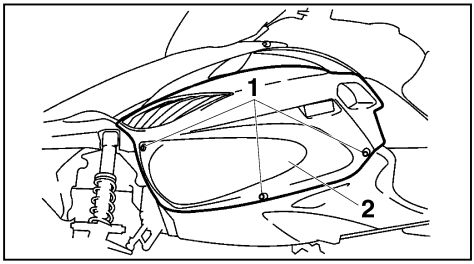
左側カバーと右側カバー

左側カバーと右側カバーの取り外しかた

1. シュラウドを取り外します（取り外し手順については前述の説明を参照）。
2. ファスナーを緩め、側面のカバーを取り外します。



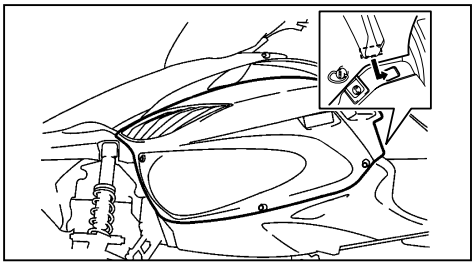
1. ファスナー
2. 右側カバー



1. ファスナー
2. 左側カバー

左側カバーと右側カバーの取り付けかた

1. 側面のカバーを元の位置に取り付け、ファスナーを締め付けます。



2. シュラウドを取り付けます。

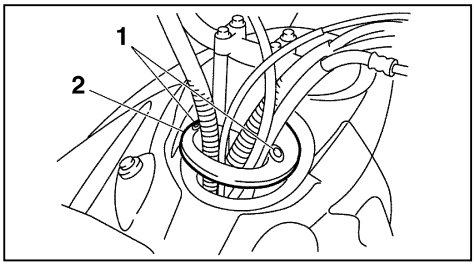
要　点

側面のカバー後部の突起部を下側の側面カバーの穴にはめ込みます。

トップカバー

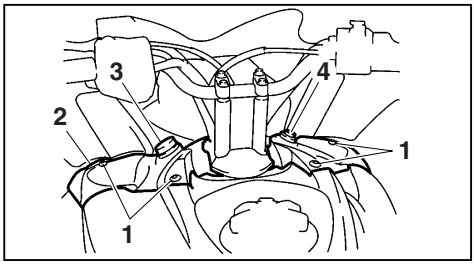
トップカバーの取り外しかた

1. シュラウドを取り外します（取り外し手順については前述の説明を参照）。
2. スクリュを外し、ケーブルガイドを取り外します。



1. スクリュ
2. ケーブルガイド

3. クイックファスナースクリュを緩め、メインスイッチカプラ、DCジャックカプラを外します。その後、トップカバーを取り外します。



1. クイックファスナースクリュ
2. トップカバー
3. DCジャック
4. メインスイッチ

トップカバーの取り付けかた

1. メインスイッチカプラとDCジャックカプラを接続し、トップカバーを元の位置に取り付けます。その後、クイックファスナースクリュを締め付けます。
2. ブレーキホース、スロットルケーブル、パーキングブレーキケーブルとワイヤーハーネスをケーブルガイドに通し、ケーブルガイドを元の位置に戻します。その後、スクリュを取り付けます。
3. シュラウドを取り付けます。

注 意

- **シュラウドやカバーを取り付ける前に、すべてのケーブル、ホースやリード線などが正しく接続されていることを確認してください。**
- **シュラウドとカバーを取り付ける時は、ファスナーを確実に締め付けてください。**

スパークプラグの点検

スパークプラグは重要なエンジン部品ですが、簡単に点検することができます。スパークプラグの状態はエンジンの状態を示します。

中心の電極を取り囲む白い磁器製の絶縁体の変色を点検してください。正常に運転されているスノーモビルなら、中程度～薄い小麦色が理想的な色です。これとは明らかに違う色だったなら、エンジンに何らかの異常があると考えられます。

例えば絶縁体が白すぎる場合は混合気が薄すぎる等の問題が考えられます。これらの問題はご自身で判断せず、スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで検査を、そして場合によっては修理を受けてください。

スパークプラグは熱と堆積物によって徐々に壊れ溶けて行きますので、定期的に取り外して点検してください。スパークプラグを別のタイプに変える場合はヤマハ販売店にご相談ください。

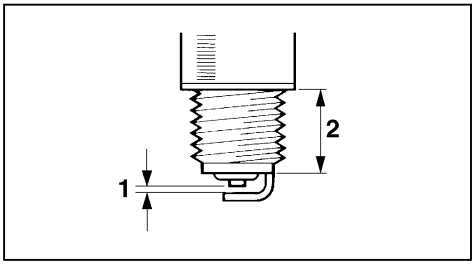
指定スパークプラグ：
メーカ名：
NGK
モデル番号：
CR9EB

⚠警 告

必ず指定されたスパークプラグとスパークプラグキャップを使用してください。指定外の物の場合、T.O.R.S.が正常に作動しなくなる可能性があります。

スパークプラグにはねじ山部分の長さが異なる何種類かがあります。ねじ山の長さ、つまりリーチは、スパークプラグガスケットシートからねじ山部分末端までの長さを表します。リーチが長すぎるとエンジンがオーバーヒートしたり損傷したりする恐れがあります。リーチが短すぎるとスパークプラグが汚れたりエンジン性能が低下する可能性があります。また露出したねじ山部にカーボンが付着して燃焼室にホットスポットを形成し、ねじ山を損傷します。スパークプラグは必ず指定されたリーチのものを使用してください。

スパークプラグのリーチ：
19.0 mm



1. スパークプラグのギャップ
2. スパークプラグのリーチ

スパークプラグを取り付ける時はワイヤーシックネスゲージで電極ギャップを測定し、規定の数値に調整してください。

スパークプラグのギャップ：
0.7～0.8 mm

またスパークプラグを取り付ける時は必ずガスケット面を清掃してください。ねじ山に汚れがついていたら拭き取り、規定トルクでプラグを締め付けてください。

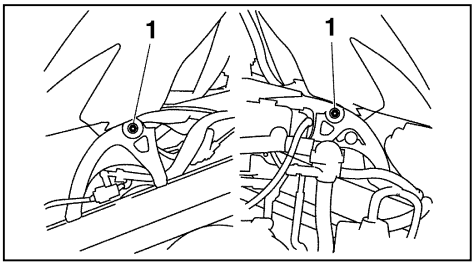
スパークプラグの締め付けトルク：
12.5 Nm（1.25 kgf · m）

注 意

スパークプラグのキャップが確実に取り付けられていることを確認してください。確実に取り付けられていない場合、エンジンの振動でスパークプラグのキャップが損傷する可能性があります。

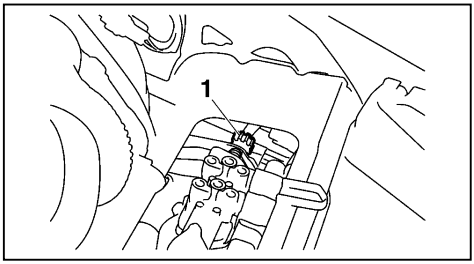
エンジンのアイドリング回転数の調整

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウド、左側カバーと右側カバーおよびトップカバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
3. エンジンを始動し暖機運転してください。
4. ヘッドライトユニットのボルトを外し、ヘッドライトユニットを持ち上げます。



1. ヘッドライトユニットのボルト

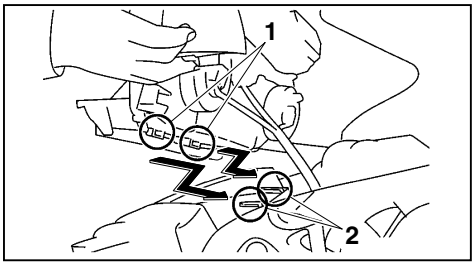
5. アイドリング回転数調整スクリュを締めるか、または緩めて、エンジンのアイドリング回転数を調整します。



1. アイドリング回転数調整スクリュ

標準のエンジンアイドリング回転数：
1400～1600 r/min

6. ヘッドライトユニットを取り付けます。ステーの突起部が底部の溝の部分にはめ込まれているか確認してください。



1. 溝の部分
2. 突起部

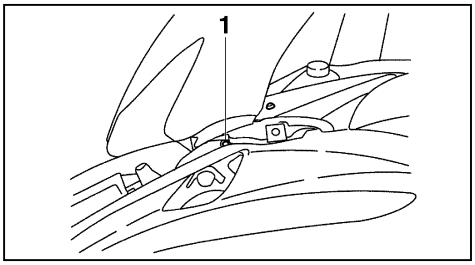
7. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

ヘッドライトユニットのボルト
締め付けトルク：
3 Nm（0.3 kgf・m）

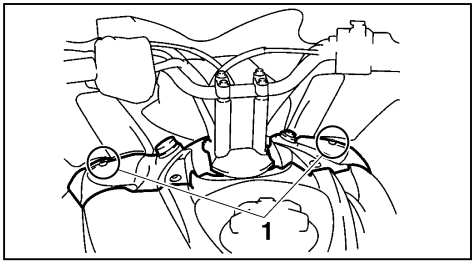
8. トップカバー、左側カバーと右側カバーおよびシュラウドを取り付けます。

スロットルケーブルの遊びの調整

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
3. スノーモビルの両側からヘッドライトユニットのボルトを外し、図に示すトップカバーのクイックファスナースクリュを緩めます。

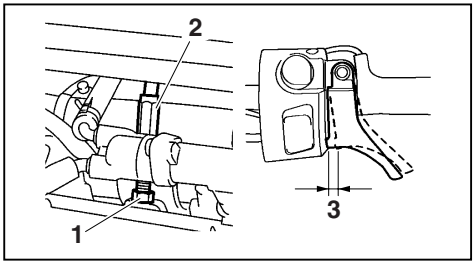


1. ヘッドライトユニットのボルト



1. クイックファスナースクリュ

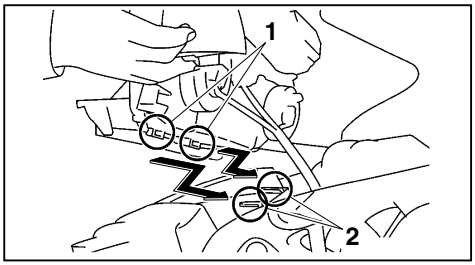
4. マルチファンクションメータユニットカプラおよびヘッドライトカプラを外し、ヘッドライトユニットを取り外します。
5. ロックナットを緩めます。
6. 指定されたスロットルケーブルの遊びになるまで、スロットルケーブルの遊びの調整用ボルトを締めるか緩めます。



1. ロックナット
2. スロットルケーブルの遊びの調整ボルト
3. スロットルケーブルの遊び

スロットルケーブルの遊び：
2.0～3.0 mm

7. ロックナットを締め付けます。
8. マルチファンクションメータユニットカプラとヘッドライトカプラを接続します。その後、ヘッドライトユニットを取り付けます。ステーの突起部が底部の溝の部分にはめ込まれているか確認してください。



1. 溝の部分
2. 突起部

9. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

ヘッドライトユニットのボルト
締め付けトルク：
3 Nm（0.3 kgf・m）

10. トップカバーにクイックファスナースクリュを締め付けます。
11. シュラウドを取り付けます。

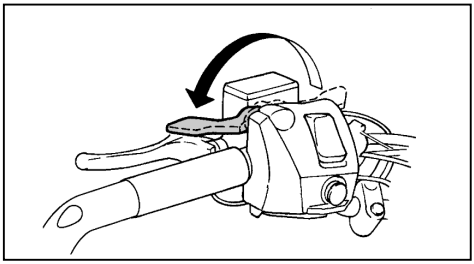
スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）の点検

⚠警 告

T.O.R.S.を点検する際はスノーモビルが動いて事故を起こさないように、気をつけてください。
- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。**
- **クラッチが回転し始めるまでエンジンの回転数を上げないでください。**

T.O.R.S.が適切に作動するか点検してください。

1. パーキングブレーキをかけます。

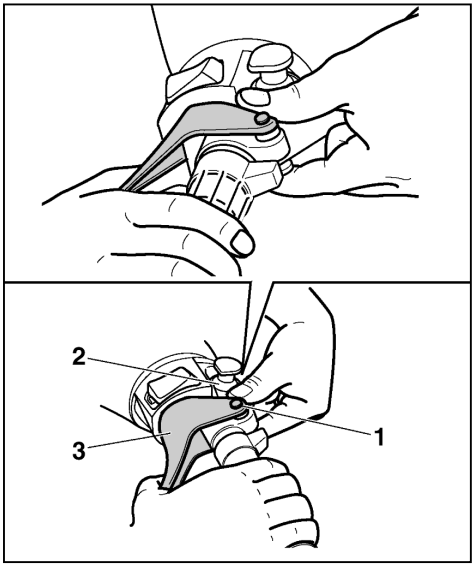


2. エンジンを始動してください。

要　点

38ページの「エンジンの始動」の項を参照してください。

3. スロットルレバーの回転軸とエンジン停止スイッチハウジングの間を親指（上側）と人指し指（下側）で挟み、スロットルレバーの回転軸をスロットルスイッチから離してください。
   この状態を保ったまま、スロットルレバーを徐々に押してください。



1. スロットルレバーの回転軸
2. エンジン停止スイッチハウジング
3. スロットルレバー

T.O.R.S.が作動し、エンジンをクラッチが接続される回転数以下にします。

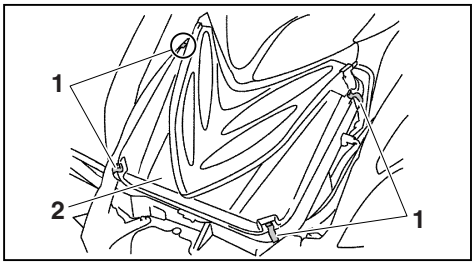
⚠警 告

クラッチが接続される回転数以下にエンジン回転数が下がらない場合は、メインスイッチをOffにしてエンジンを止め、ヤマハ販売店にご相談ください。T.O.R.S.が誤作動したままスノーモビルを運転すると、制御不能になる可能性があります。

エアフィルタの点検

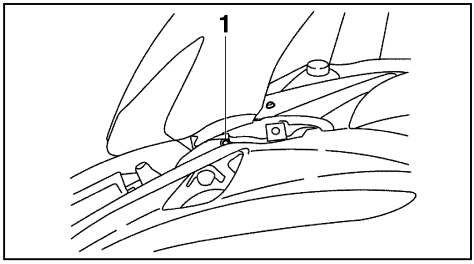
スノーモビルを乗車する度に、エアフィルタエレメントフレームの下側に残雪がないか点検してください。また使用状況により、乗車中に清掃する必要があります。

1. シュラウドを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
2. エアフィルタケースカバーのフックを外します。

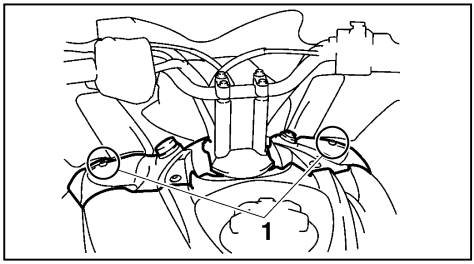


1. エアフィルタケースカバーのファスナー
2. エアフィルタケースカバー

3. スノーモビルの両側からヘッドライトユニットのボルトを外し、図に示すトップカバーのクイックファスナースクリュを緩めます。

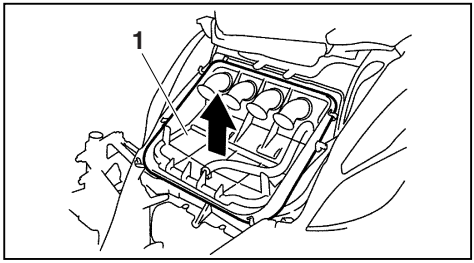


1. ヘッドライトユニットのボルト

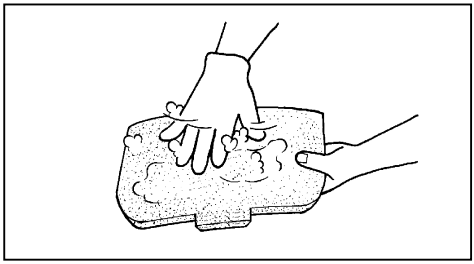


1. クイックファスナースクリュ

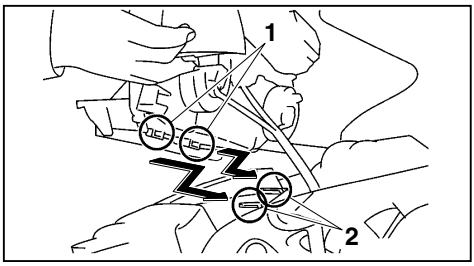
4. ヘッドライトユニットを少し持ち上げ、エアフィルタケースカバーを取り外します。
5. エアフィルタエレメントフレームを持ち上げ、エアフィルタエレメントを点検します。エアフィルタエレメントに残雪がある場合は、エアフィルタエレメントを取り外して、残雪を取り除きます。その後、エアフィルタエレメントを取り付けます。



1. エアフィルタエレメントフレーム



6. エアフィルタエレメントフレームを元の位置に取り付けます。その後、ファスナーのフックを掛けエアフィルタケースカバーを取り付けます。
7. ヘッドライトユニットを取り付けます。ステーの突起部が底部の溝の部分にはめ込まれているか確認してください。



1. 溝の部分
2. 突起部

8. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

ヘッドライトユニットのボルト
締め付けトルク：
3 Nm（0.3 kgf・m）

9. トップカバーにクイックファスナースクリュを締め付けます。
10. シュラウドを取り付けます。

標高の高い場所で走行する場合の設定

ガソリンエンジンは標高が305 m上がる毎に、性能が約3%低下します。これは標高が高くなるにつれ空気が薄くなるためです。空気が薄くなれば燃焼に必要な酸素も少なくなります。
当スノーモビルは電子燃料噴射システムを内蔵し、最適な混合比のエアと燃料をエンジンに送ります。従って、標高の高い場所で走行する場合でも、電子燃料噴射システムの調整は不要です。

重要：
空気が薄く標高が高くなると、適切なエア/燃料の混合比でも馬力は低下します。加速も最高速度も低下すると考えてください。
標高の高いところでの馬力低下を克服するため、さらにドライブチェーンギヤとVベルトクラッチの調整を変更し、性能低下と急速な摩耗を回避することが必要なこともあります。スノーモビルをお買い求めの場所とは標高が異なる場所で運転する場合は、必ずヤマハ販売店にご相談ください。その標高のために何らかの変更が必要かどうか、ヤマハ販売店から説明があります。

注 意

900 mより高い標高で運転する場合は、ドライブチェーンのギヤとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスは、スノーモビルの使用に従って変化するため、結果としてエアと燃料の混合比やエンジンノイズの異常が起こります。これらを防ぐには、定期点検チャートに示された周期で、バルブクリアランスをヤマハ販売店で調整する必要があります。

エンジンオイルとオイルフィルタカートリッジ

エンジンオイルのレベルは、スノーモビルを使用する度に点検する必要があります。また、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で、エンジンオイルとオイルフィルタカートリッジを交換してください。

⚠ 警 告

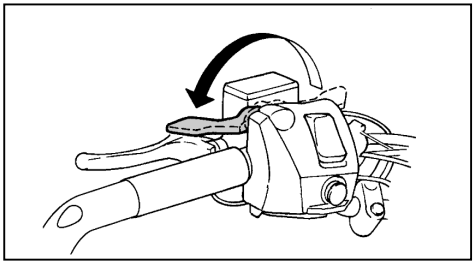
エンジンを止めた直後は、エンジンオイルが非常に高温になっています。高温状態のエンジンオイルに触れたり、衣服にかかったりすると火傷する恐れがあります。

注 意

- **オイルタンク内のオイルが多すぎる状態、または少なすぎる状態でエンジンを回さないでください。エンジンオイルが噴き出したり、エンジンが損傷する恐れがあります。**
- **エンジンオイルは走行距離が800 kmに達した時点で交換し、それ以降は4000 km毎に、またはシーズンが始まる前に交換してください。エンジンオイルの交換時期が遅れると、エンジンの摩耗が早まることになります。**
- **オイルフィルタカートリッジは、走行距離が800 kmに達した時点で交換し、それ以降は20000 km毎に交換してください。オイルフィルタカートリッジはヤマハ販売店で交換して下さい。**

エンジンオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけてください。



2. エンジンを始動し、10～15分間ほどアイドリング運転してから、エンジンを止めてください。

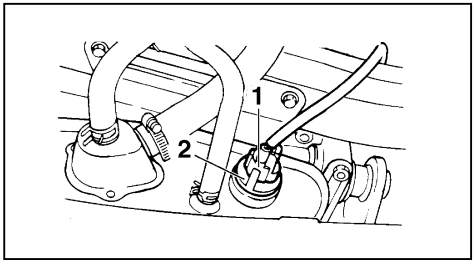
要 点

- エンジンの暖機は、スノーモビルを10～15分間走行させておこなうこともできます。
- スノーモビルの運転後、エンジンを少なくとも10秒間アイドリングさせてから、エンジンを止めてください。

3. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
4. オイルレベルゲージカプラを外します。

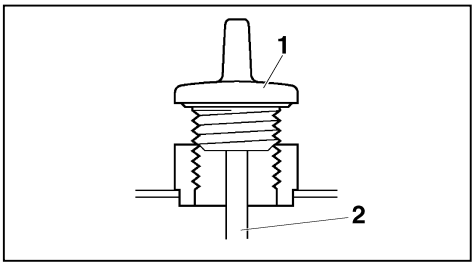
注 意

オイルフィラーキャップを外す前にオイルレベルゲージカプラを外してください。オイルレベルゲージカプラを外さなければ、ケーブルがねじれたり、破断する可能性があります。



1. オイルレベルゲージカプラ
2. オイルフィラーキャップ

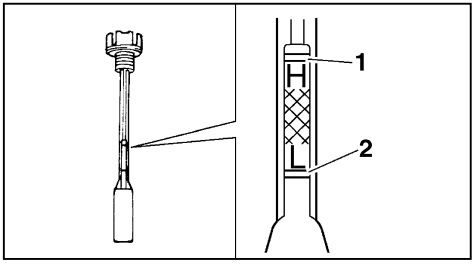
5. オイルフィラーキャップを外し、ディップスティックを拭いてきれいにし、それを元のオイルフィラーホールに差し込み（但し、差し込むだけで、ねじ込まないこと）、もう一度外してオイルレベルを確認してください。



1. オイルフィラーキャップ
2. ディップスティック

要　点

エンジンオイルは、ディップスティックの“H”と“L”レベルの間でなければなりません。



1. “H”レベルのマーク
2. “L”レベルのマーク

6. エンジンオイルが“L”レベルのマークより低い場合は、充分な量の推奨エンジンオイルを補充してオイルが“H”レベルのマーク位置になるようにしてください（推奨エンジンオイルについては、63ページを参照）。

注 意

- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **推奨エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**

7. ディップスティックをオイルフィラーホールに差し込み、オイルフィラーキャップを締めてください。
8. オイルレベルゲージカプラを接続してください。
9. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

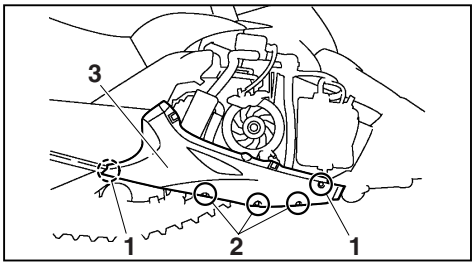
エンジンオイルの交換方法（オイルフィルタカートリッジを交換しない場合）

要　点

オイルフィルタカートリッジは、ヤマハ販売店で交換してください。

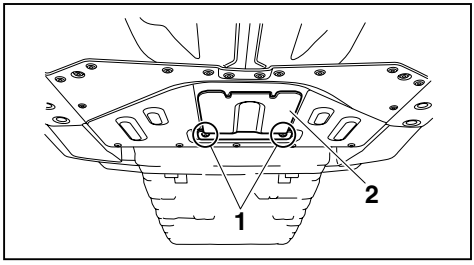
1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけてください。
2. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
3. シュラウドと右側カバーを外します（取り外し手順は51ページを参照）。

4. スクリュとボルトを取り外してください。その後、右下側カバーを外側に引いて取り外してください。



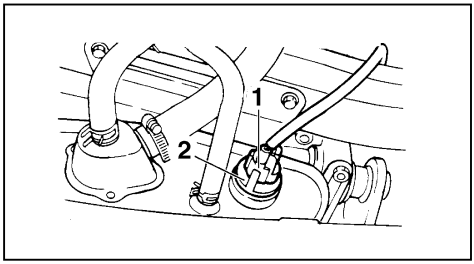
1. スクリュ
2. ボルト
3. 右下側カバー

5. ボルトを外し、ボトムパネルを取り外してください。



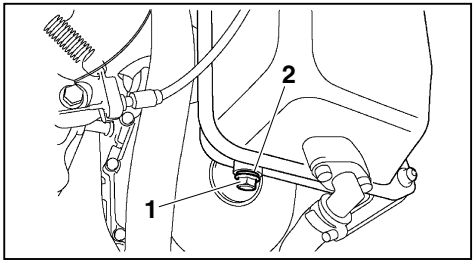
1. ボルト
2. ボトムパネル

6. オイルタンクの下側にオイルパンを置いてください。
7. オイルレベルゲージカプラを外してください。



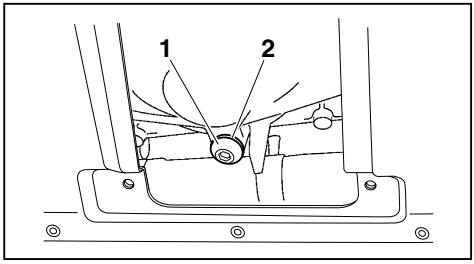
1. オイルレベルゲージカプラ
2. オイルフィラーキャップ

8. オイルフィラーキャップを取り外してください。その後、エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）とガスケットを外し、オイルタンク内のエンジンオイルを排油してください。



1. エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）
2. ガスケット

9. エンジンの下側にオイルパンを置いてください。
10. エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）とガスケットを外し、クランクケース内のエンジンオイルを排油してください。



1. エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）
2. ガスケット

要　点

使用済みのエンジンオイルは、法令に従って廃棄してください。

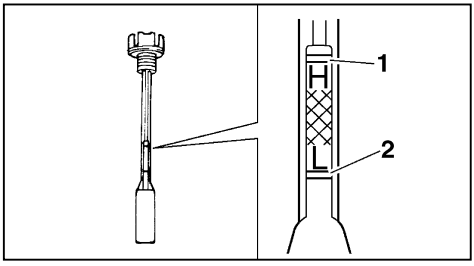
11. エンジンオイルドレンボルトと新しいガスケットを取り付けてください。その後、ボルトを規定のトルクで締め付けてください。

締め付けトルク：
エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）：
30 Nm（3.0 kgf・m）
エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）：
16 Nm（1.6 kgf・m）

12. 推奨エンジンオイルを2.0 Lほどオイルタンクに補充し、オイルフィラーキャップを締め付けてください。
13. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
14. オイルフィラーキャップを取り外してください。その後、ディップスティックの“H”レベルのマークの位置まで、推奨エンジンオイルを補充してください（点検手順については上記の説明を参照）。

注 意

- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **推奨エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**



1. “H”レベルのマーク
2. “L”レベルのマーク

推奨エンジンオイル：
スノーオイル R-FORCE
SAE 0W-30
オイル量：
オイルフィルタカートリッジを交換した場合：
3.0 L
オイルフィルタカートリッジを交換しない場合：
2.8 L
総量：
3.8 L

15. オイルフィラーキャップを取り付け、締め付けます。
16. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転しながら、エンジンオイルの漏れがないことを確認してください。オイル漏れがある場合は、直ちにエンジンを止め、エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）、エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）、およびオイルフィラーキャップが正しく取り付けられているか確認してください。
17. エンジンを止めて、オイルレベルゲージカプラを接続してください。
18. ボトムパネルと右下側カバーを取り付けてから、右側カバーとシュラウドを取り付けます。

注 意

オイル漏れがある場合、またはエンジン回転時にオイルレベル警告灯が点灯した場合は、直ちにエンジンを止めて、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検をおこなってください。上記のような状態でエンジンを回し続けると、エンジンに深刻な障害が発生する原因になります。

冷却システム

スノーモビルに乗る時は、毎回クーラントレベルを点検してください。また、冷却システムのエア抜きを、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で実施してください。

⚠警 告

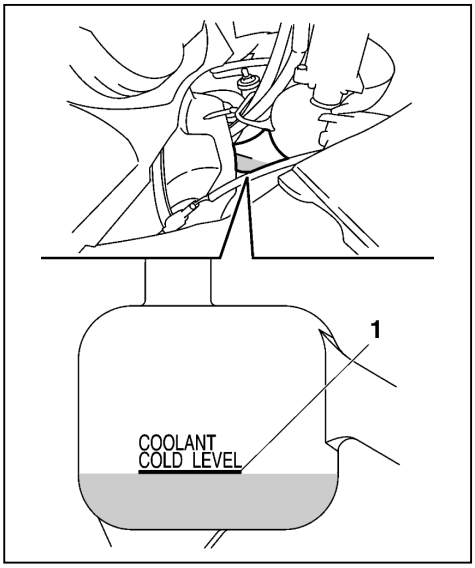
エンジンが高温状態の時は、クーラントリザーバキャップを決して外さないでください。加圧状態になっている非常に高温のラジエター液が噴き出して、大やけどを負う恐れがあります。
エンジンが冷えてから、ウエスまたはタオルをクーラントリザーバキャップにかぶせ、クーラントリザーバキャップを左回り（反時計回り）に、止まる位置までゆっくり回してください。これにより、ラジエター液の残留圧が抜けます。
シューという音が消えたら、クーラントリザーバキャップを左回りに回しながら押し込んで、クーラントリザーバキャップを外します。

クーラントレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. トップカバーを取り外してください（取り外し手順は52ページを参照）。
3. エンジンが冷えてから、クーラントリカバリタンク内のクーラントレベルを点検します。クーラントレベルが“COLD LEVEL”マークより低い場合は、“COLD LEVEL”マーク位置に達するまでクーラントを補充してください（詳細は、「クーラントの補充方法」の項の指示に従ってください）。

注 意

クーラントが入手できない場合は、蒸留水か水道水（軟水）を代用してください。硬水や塩水はエンジンを傷めますので使用しないでください。クーラントの代わりに水を使用した場合は、できるだけ早くクーラントと交換してください。水のままですと、冷却システムが凍結や腐食から保護されないことになります。
クーラントに水を加えた場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でクーラントの不凍液含有量を確認してください。放置すると不凍効果が低下することになります。



1. “COLD LEVEL”マーク

4. トップカバーを取り付けてください。

冷却システムのエア抜き

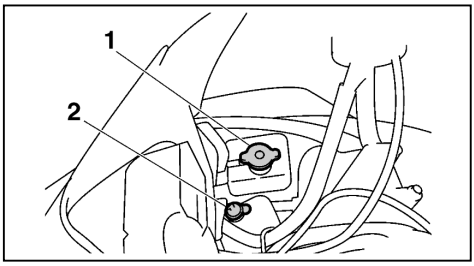
クーラントリザーバが空になった場合、冷却システム内のエア混入が疑われる場合、または冷却システムの漏れが見つかった場合は、冷却システムのエア抜きをおこなう必要があります。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

注 意

冷却システムのエア抜きが不充分な状態でエンジンを回し続けると、エンジンがオーバーヒートしたり、エンジンに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

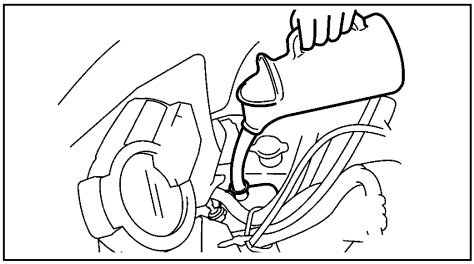
クーラントの補充方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. トップカバーを取り外してください（取り外し手順は52ページを参照）。
3. クーラントリザーバキャップを取り外し、推奨のクーラントをクーラントリザーバに補充します。その後、クーラントリザーバキャップを取り付けます。



1. クーラントリザーバキャップ
2. クーラントリカバリタンクキャップ

4. クーラントリカバリタンクキャップを取り外し、推奨のクーラントを“COLD LEVEL”マークの位置まで補充します。その後、クーラントリカバリタンクキャップを取り付けます。



推奨不凍液：
　ヤマハ純正ロングライフクーラント
不凍液と水の混合比：
　3：2
総量：
　6.40 L

5. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
6. クーラントの漏れの有無を点検してください。クーラントが漏れている場合、その原因を確認してください。
7. クーラントリザーバ内のクーラントレベルを点検します。満タンでない場合は、クーラントリザーバキャップを取り外し、推奨のクーラントをクーラントリザーバに補充します。その後、クーラントリザーバキャップを取り付けます。

要　点

クーラントの漏れがある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

8. トップカバーを取り付けてください。

Vベルト

⚠警 告

- **回転しているVベルトやクラッチに接触した場合、負傷または重傷を負う可能性があります。ドライブガードを外した状態でエンジンを作動しないでください。**
- **スノーモビルを運転する時は、破損したVベルトや他の外れた部品によって、負傷または重傷を負うことがないように、あらかじめドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。**

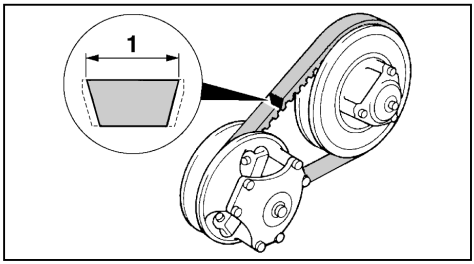
注 意

Vベルトを外した状態で、決してエンジンを作動しないでください。クラッチが損傷する可能性があります。

スノーモビルに乗る時は、毎回Vベルトを点検してください。

Vベルトの点検方法

1. シュラウドと左側カバーを外し、ドライブガードを取り外します（取り外し手順は27と51ページを参照）。
2. Vベルトに摩耗や損傷がないか点検し、必要に応じ交換してください。



1. Vベルトの摩耗限度

新しいVベルトの幅：
34.5 mm
Vベルトの摩耗限度幅：
32.5 mm

3. ドライブガードを付け、左側カバーとシュラウドを取り付けます。

Vベルトの交換と調整方法

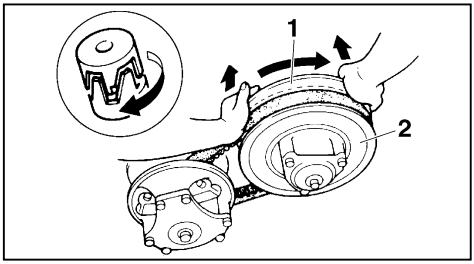
⚠警 告

新しいVベルトを取り付ける時は、正しい位置に確実に取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、クラッチが接続する回転数が変化し、エンジンを始動した時にスノーモビルが予期しない動きをして、事故の原因になる恐れがあります。

注 意

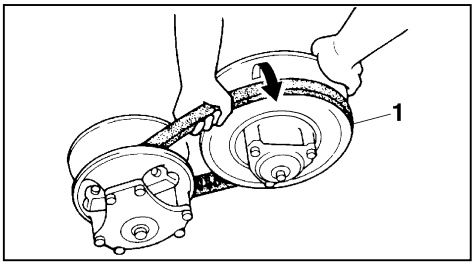
Vベルトが摩耗すると、Vベルトの位置は変更します。Vベルトの位置が既定値を外れた場合は、クラッチを正常に作動させる為に調整する必要があります。調整は、ヤマハ販売店に依頼してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドと左側カバーを外し、ドライブガードを取り外します（取り外し手順は27と51ページを参照）。
3. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出してください。



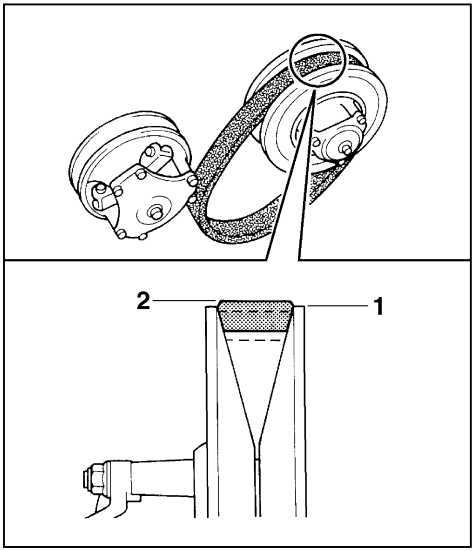
1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

4. Vベルトを引っ張り上げてセカンダリー固定シーブから外してください。



1. Vベルト

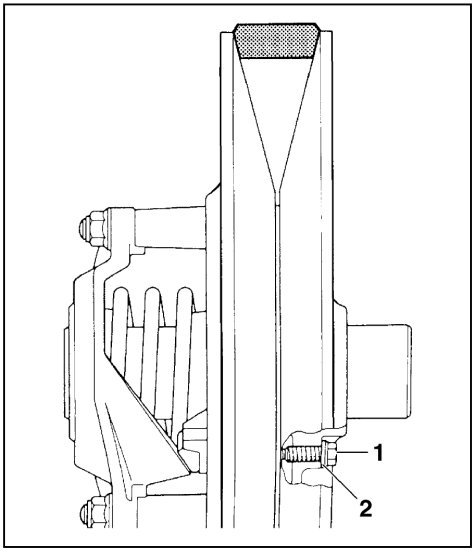
5. Vベルトをセカンダリー、プライマリー両方のシーブアセンブリから外してください。
6. 新しいVベルトをセカンダリーシーブアセンブリだけに取り付けてから、Vベルトの位置を測定します。Vベルトを両方のシーブ間に押し込まないでください。セカンダリーのスライディングシーブと固定シーブとは互いに接触していなければなりません。



1. セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部
2. Vベルトの位置

Vベルトの標準位置：
セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部の上側1.5 mmから、エッジ部の下側0.5 mmの間

7. Vベルトの位置が正しくない場合は、それぞれのVベルト位置調整ボルトのスペーサを減らすか、追加してVベルトの位置を調整します。



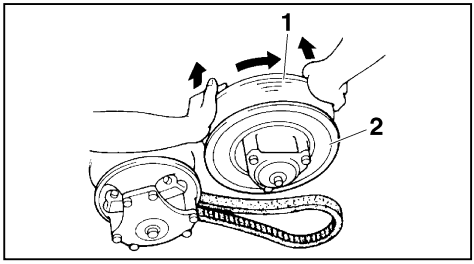
1. Vベルト位置調整ボルト
2. スペーサ

Vベルトの位置	調　整
エッジ部の上側 1.5 mm以上	スペーサを減らす
エッジ部の上側1.5 mmから、エッジ部の下側0.5 mmの間	調整不要 （正しい位置です。）
エッジ部の下側 0.5 mm以上	スペーサを追加する

8. Vベルト位置調整ボルトを締め付けます。

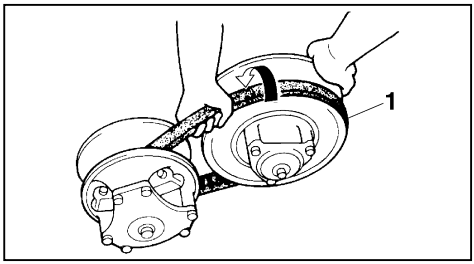
Vベルト位置調整ボルトの
締め付けトルク：
　10 Nm（1.0 kgf・m）

9. Vベルトをプライマリーシーブアセンブリに取り付けます。
10. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出してください。



1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

11. Vベルトをセカンダリースライディングシーブと固定シーブの間に取り付けます。



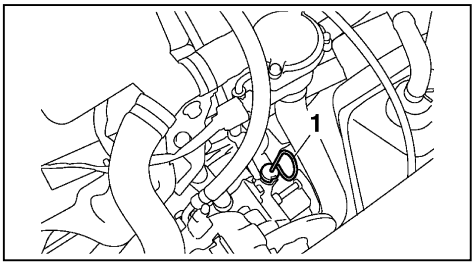
1. Vベルト

12. ドライブガードを取り付け、左側カバーとシュラウドを取り付けます。

ドライブチェーンハウジング

ドライブチェーンハウジングのオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
3. ディップスティックを外し、きれいなウエスでオイルを拭き取り、再びオイルフィラーホールに差し込みます。

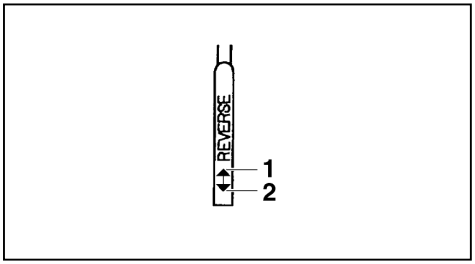


1. ディップスティック

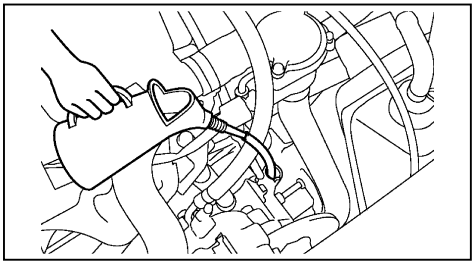
4. ディップスティックを取り出し、オイルレベルがディップスティックの“REVERSE”側にあるフルレベルとロアレベルの間にあることを確認します。エンジンオイルがロアレベルより低い場合は、充分な量の推奨オイルを補充してオイルがフルレベルになるようにしてください。

注 意

ドライブチェーンハウジングに異物が入らないようにしてください。

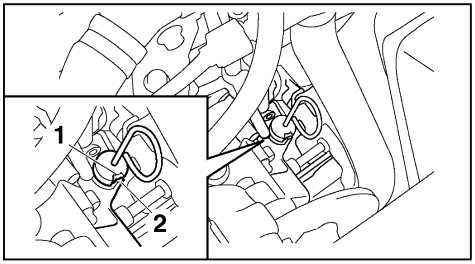


1. フルレベル
2. ロアレベル



推奨ドライブチェーンオイル：
SAE 75Wまたは80W API GL-3
ギヤオイル

5. ディップスティックを取り付け、ディップスティックハンドルのノッチ部をドライブチェーンハウジングの突起部に合わせてください。

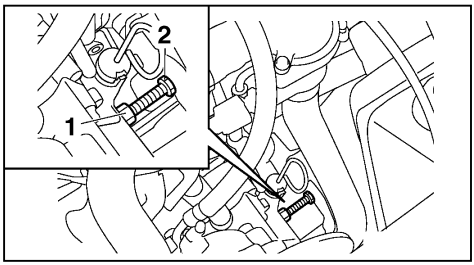


1. ノッチ部
2. 突起部

6. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

チェーンのテンション調整

1. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
2. ロックナットを緩めます。
3. チェーンテンション調整ボルトを、右回り（時計回り）に手で締まる程度に締め付けてから、1/4回転ほど戻します。



1. ロックナット
2. チェーンテンション調整ボルト

4. チェーンテンション調整ボルトを動かさずに、ロックナットを締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット
25 Nm（2.5 kgf・m）

5. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

ブレーキ、パーキングブレーキ

⚠警 告

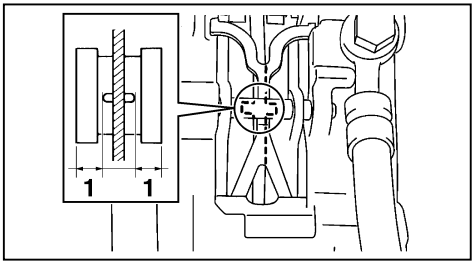
- **ブレーキレバーを握った時やわらかくスポンジのような感触があるなら、ブレーキ系が故障しています。**
- **その場合スノーモビルは運転しないでください。ブレーキがかからず、事故を起こす恐れがあります。ヤマハ販売店にブレーキ系の点検と修理を依頼してください。**

発進する時は低速でブレーキをテストし、適切に作動することを確認してください。ブレーキ性能が適正でなかった場合、ブレーキの摩耗、あるいはブレーキ液の漏れを点検してください（詳細については以下の項を参照）。

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の程度を以下の方法で点検してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
2. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
3. ブレーキパッドの摩耗を点検します。
   ブレーキパッドが摩耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。



1. ブレーキパッドの摩耗限度

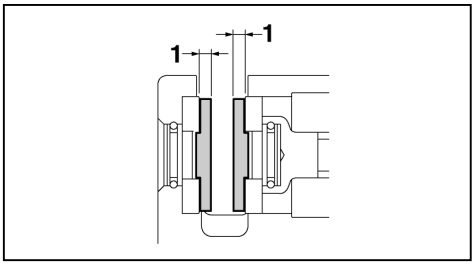
ブレーキパッドの摩耗限度：
4.7 mm

4. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

パーキングブレーキパッドの点検

パーキングブレーキパッドの摩耗の程度を以下の方法で点検してください。

1. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
2. パーキングブレーキパッドの厚さを測定して、摩耗の程度を点検してください。パーキングブレーキパッドが摩耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。



1. パーキングブレーキパッドの摩耗限度

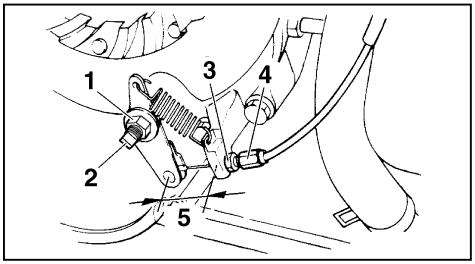
パーキングブレーキパッドの
摩耗限度：
1.2 mm

3. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

パーキングブレーキの調整方法

パーキングブレーキパッドの摩耗が進むにつれ、正規のブレーキ性能を保つために調整が必要になります。

1. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
2. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナットと、パーキングブレーキパッド調整ボルトを緩めます。
3. パーキングブレーキケーブルのロックナットを緩めます。
4. パーキングブレーキケーブル調整ボルトを回して、パーキングブレーキケーブルの長さを調整します。

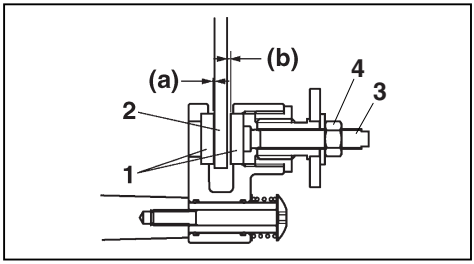


1. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナット
2. パーキングブレーキパッド調整ボルト
3. パーキングブレーキケーブルのロックナット
4. パーキングブレーキケーブル調整ボルト
5. パーキングブレーキケーブルの長さ

パーキングブレーキケーブルの長さ：
43.5～46.5 mm

5. パーキングブレーキケーブルのロックナットを締め付けます。

6. パーキングブレーキパッド調整ボルトを回して、パーキングブレーキパッドとブレーキディスク間のクリアランス（隙間）を調整します。



1. パーキングブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. パーキングブレーキパッド調整ボルト
4. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナット

パーキングブレーキパッドとブレーキディスク間のクリアランス、(a)＋(b)：
1.5～2.0 mm

7. パーキングブレーキパッド調整ボルトのロックナットを締め付けます。
8. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

ブレーキ液のレベル点検

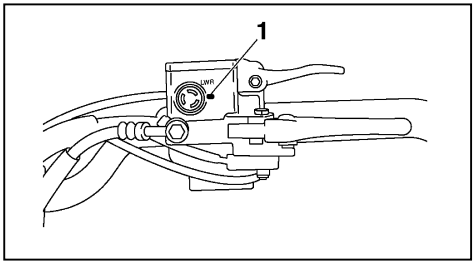
⚠ 警 告

補充する時マスターシリンダに水が入らないよう注意してください。水はブレーキ液より沸点がかなり低く、ベーパーロックを引き起こす恐れがあります。
ブレーキ液レベルが低下する場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

注 意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。ブレーキ液をこぼさないでください。こぼれた場合はすぐに洗浄してください。

スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけます。
ブレーキ液がロアレベル以上であることを確認し、必要なら補充してください。



1. ロアレベル

指定ブレーキ液：
DOT 4

ブレーキ液の交換

⚠ 警 告

ブレーキ液と下記部品の交換は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

定期点検で下記の部品を交換する場合、あるいはこれら部品に損傷や漏れが見つかった場合、ブレーキ液の交換が必要です。

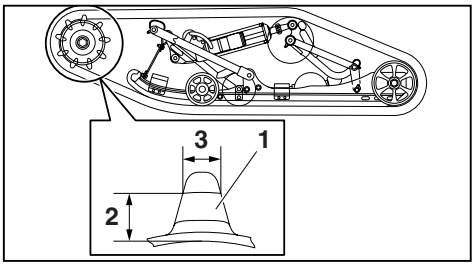
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシール全部
- ブレーキホース

エクストロバートドライブスプロケット

エクストロバートドライブスプロケットの摩耗と損傷を点検してください。
必要に応じ交換してください。

エクストロバートドライブスプロケットの摩耗の測定方法

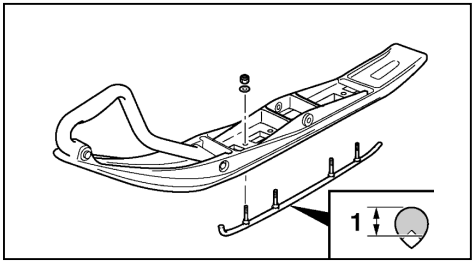
エクストロバートドライブスプロケットの歯の底部から20 mmの位置で歯面の幅を測定してください。歯面の幅が13 mm以下のときは、エクストロバートドライブスプロケットを交換してください。



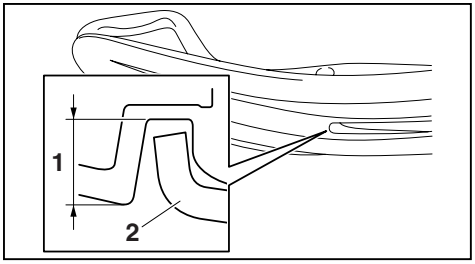
1. エクストロバートドライブスプロケットの歯
2. 測定位置の高さ：20 mm
3. エクストロバートドライブスプロケットの歯面の幅

スキー、スキーランナー

スキーとスキーランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換してください。



1. スキーランナーの摩耗限度



1. スキーの摩耗限度
2. スキーランナー

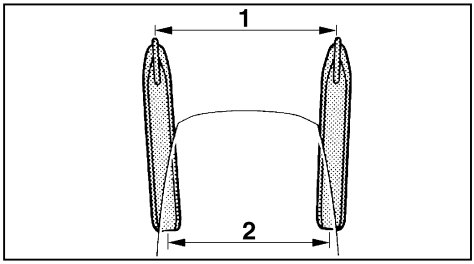
スキーランナーの摩耗限度：
8 mm
スキーの摩耗限度：
24 mm

注 意

スノーモビルに荷物を積下ろしする時、雪が少ない場所を走行する時、あるいはコンクリート、縁石などの近くを走行する時、スキーに傷をつけないでください。傷はスキーを摩耗・損傷させます。

スキーのアライメント調整

1. ハンドルバーを操作してスキーをまっすぐ前方に向けてください。
2. 次の点検をおこなってスキーのアライメントを調べてください。
   - スキーは前方を向いているか。
   - スキーのトーアウト（距離A－距離B）が指定範囲内か。



1. 距離A
2. 距離B

スキーのトーアウト（距離A－距離B）：
0.0～15.0 mm

要　点

各スキーの先端を完全に内側に動かした状態で、調整や測定をおこなってください。

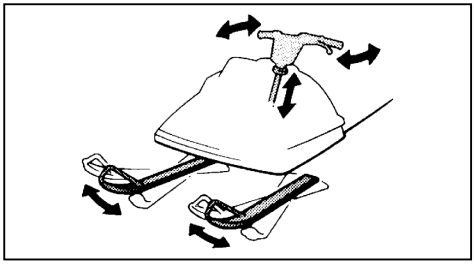
3. アライメント不良の場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ステアリング系

ハンドルバーに過度の遊びがないか点検してください。

ハンドルバーの点検方法

1. ハンドルバーを上下、前後に押してみてください。
2. ハンドルバーを少しだけ左右に振ってみてください。



過度の遊びが認められる場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ドライブトラック、スライドランナー

ドライブトラック

⚠警 告

破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた石屑は、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。次の注意事項を守ってください。

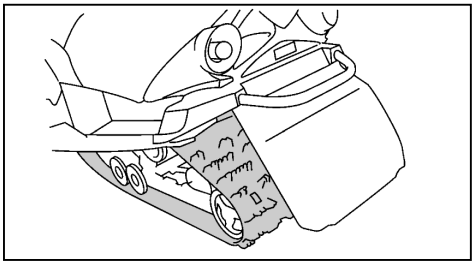
- **エンジンが動いている時は、スノーモビルの後ろにだれも立ち入らせないでください。**
- **ドライブトラックを回転させるためスノーモビルのリヤを持ち上げる場合は、適切なスタンドを使用してスノーモビルのリヤ側を支えてください。ドライブトラックを回転させる時、絶対に手でスノーモビルのリヤを持ち上げないでください。回転しているドライブトラックには絶対に人を近づけないでください。**
- **ドライブトラックの状態は頻繁に点検してください。損傷したスライドメタルは交換してください。ドライブトラックが深く損傷したら、ドライブトラックは交換してください。損傷・故障したトラックではブレーキ能力が失われる為、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。**

ドライブトラックの点検

⚠警 告

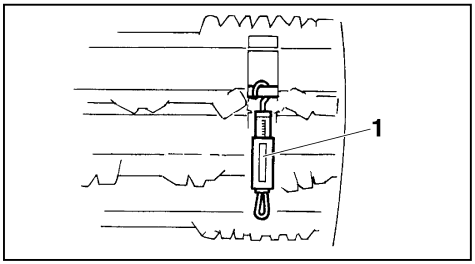
ドライブトラックに損傷または調整不良が見つかった場合、スノーモビルは運転しないでください。ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

ドライブトラックのたわみ量の点検とドライブトラックの摩耗および損傷の有無を点検してください。
必要に応じ調整または交換してください（詳細については以下の項を参照）。



ドライブトラックのたわみ量の測定

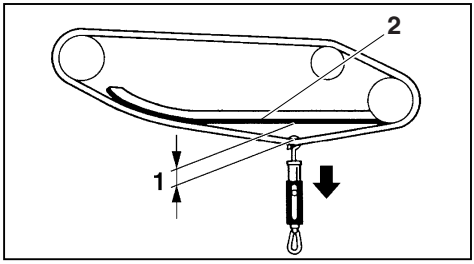
1. スノーモビルを横に寝かせてください。
2. スプリングスケールでドライブトラックのたわみ量を測定してください。ドライブトラックの中央を100N（10kg）の力で引っ張ってください。



1. スプリングスケール

要　点

スライドランナーとトラックウィンドウのエッジとの間のギャップを測定してください。左右両側で測定してください。



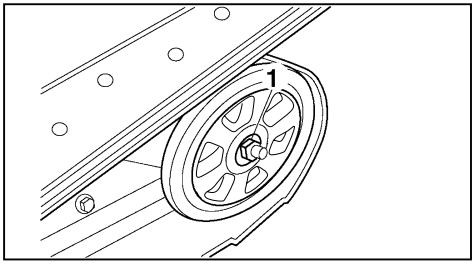
1. ドライブトラックのたわみ量
2. スライドランナー

ドライブトラックの標準たわみ量：
30.0～35.0 mm

3. たわみ量が標準範囲外の場合は、ドライブトラックを調整してください。

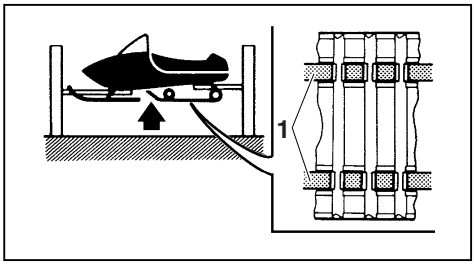
ドライブトラックの調整

1. リヤアクスルナットを緩めてください。



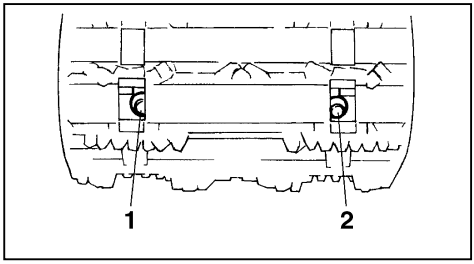
1. リヤアクスルナット

2. スノーモビルのリヤを持ち上げて適切なスタンドに載せ、ドライブトラックを地面から離してください。
3. エンジンを始動し、ドライブトラックを1、2回転させてください。エンジンを止めてください。
4. ドライブトラックとスライドランナーとのアライメントを点検してください。アライメントが異常の場合は、左右の調整ナットを回してドライブトラックのアライメントを適正にしてください。



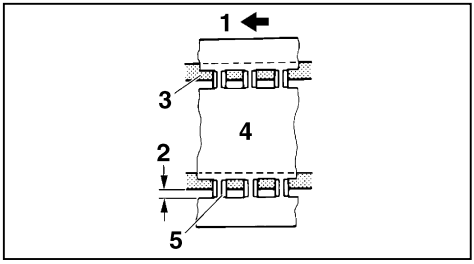
1. スライドランナー

ドライブトラックのアライメント	右に寄っている場合	左に寄っている場合
左側の調整ナット	緩める	締める
右側の調整ナット	締める	緩める



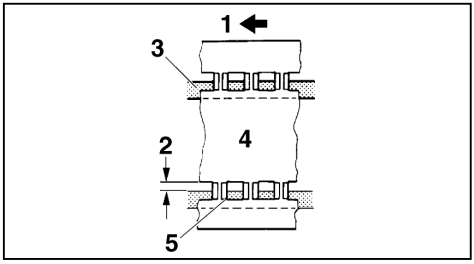
1. 左側の調整ナット
2. 右側の調整ナット

右に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

左に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

5. ドライブトラックのたわみ量を仕様に合わせて調整してください。

注 意

左右の調整ナットは同じ量だけ回してください。

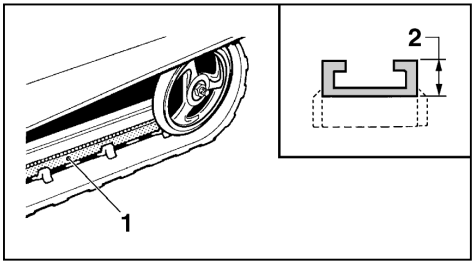
ドライブトラックのたわみ量	指定値を超過	指定値に不足
左側の調整ナット	締める	緩める
右側の調整ナット	締める	緩める

6. アライメントとたわみ量を再度点検してください。必要ならば調整が適正になるまでステップ3～5を繰り返します。
7. スノーモビルを地面に下ろします。
8. リヤアクスルナットを締めてください。

リヤアクスルナットの締め付けトルク：
75 Nm（7.5 kgf・m）

スライドランナー

スライドランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。
スライドランナーが摩耗限度に達している場合は、交換してください。



1. スライドランナー
2. 摩耗限度の高さ

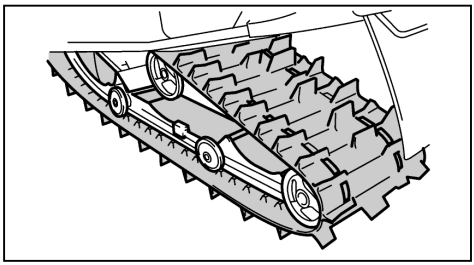
スライドランナーの摩耗限度高：
10.5 mm

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

山高パターンのドライブトラック

当スノーモビルには、特に深い雪面を走行するために57 mmの山高パターンのドライブトラックが標準で装備されています。従って、トラックやスライドランナーの寿命を延ばすために、氷、圧雪面、泥などの固い表面を長時間にわたって走行しないようにしてください。



注 意

- **深い雪面の走行にのみ使用してください。**
- **雪の少ない状態、氷、圧雪面、泥、草地などの固い表面を走行すると、潤滑の役割をする雪が無いために、トラックやスライドランナーが短時間で摩耗したり、損傷することになります。**

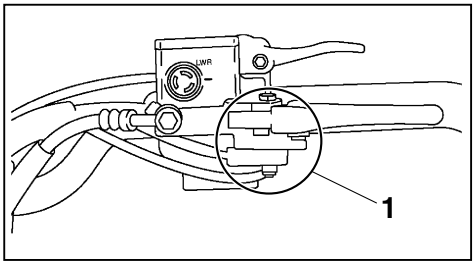
給脂

以下の各給脂（潤滑）ポイントに、指定のグリースを給脂してください。

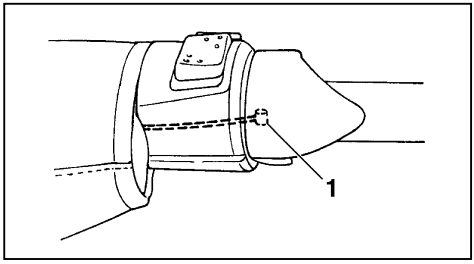
⚠警 告

グリースは、ケーブルエンドだけに塗布してください。スロットルケーブル自体にはグリースを塗布しないでください。ケーブルが凍結して制御不能になることがあります。

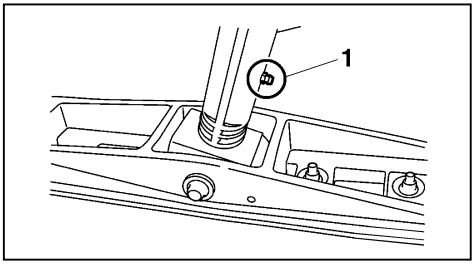
潤滑油：
低温用グリース



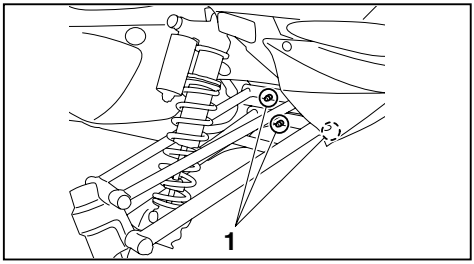
1. 給脂ポイント



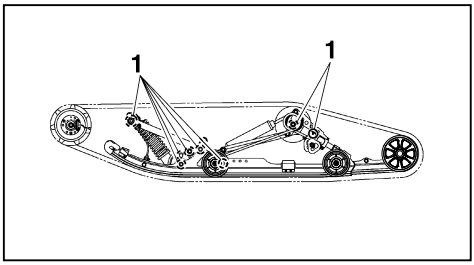
1. スロットルケーブルエンド



1. グリスニップル



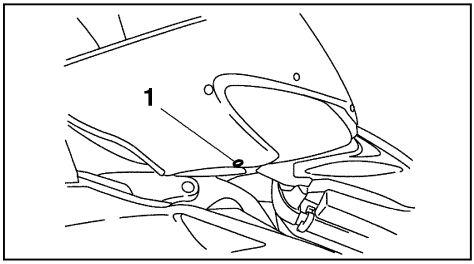
1. グリスニップル



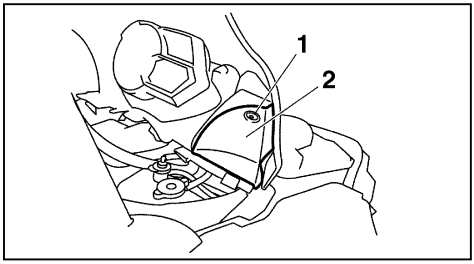
1. グリスニップル

ヘッドライトバルブの交換

1. トップカバーを取り外します（取り外し手順は52ページを参照）。
2. スクリュを外し、ヘッドライトアクセスパネルを取り外します。



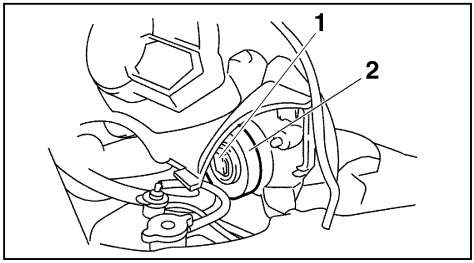
1. スクリュ



1. スクリュ
2. ヘッドライトアクセスパネル

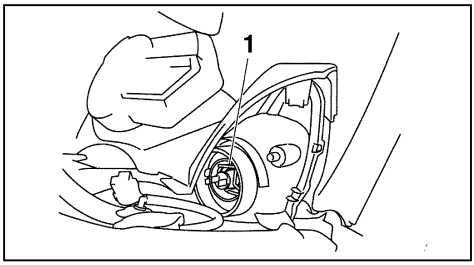
3. ヘッドライトカプラを外します。

4. バルブホルダカバーを外します。



1. ヘッドライトカプラ
2. バルブホルダカバー

5. バルブホルダを押し込み、右回り（時計回り）に回してフックを外します。

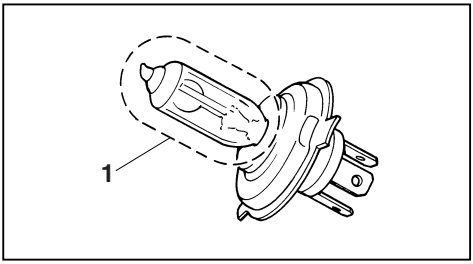


1. バルブホルダ

6. ヘッドライトバルブを外します。
7. 新しいヘッドライトバルブを取り付け、バルブホルダをヘッドライトユニットに取り付けます。

注 意

ヘッドライトバルブのガラス部分にはオイルや手を接触させないでください。ヘッドライトバルブの寿命が縮まり、照度も影響を受けます。
ガラス部分にオイルが付着した場合、アルコールまたはラッカーシンナーをつけた布できれいに拭き取ってください。



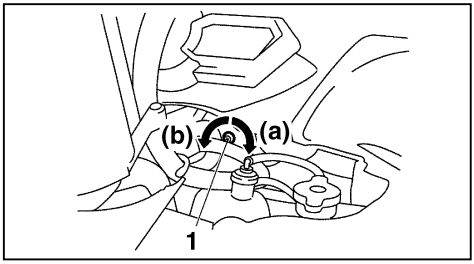
1. ハロゲンバルブのガラス部分に手を触れないこと。

バルブの種類：
ハロゲンバルブ

8. バルブホルダカバーを取り付け、ヘッドライトカプラを接続します。
9. ヘッドライトアクセスパネルとトップカバーを取り付けます。

ヘッドライトビームの調整

1. トップカバーを取り外します（取り外し手順は52ページを参照）。
2. プラスドライバーを使用してヘッドライトビーム調整スクリュを回して、ヘッドライトビームを調整します。
   ヘッドライトビームを下げるには、ヘッドライトビーム調整スクリュを(a)方向に回します。ヘッドライトビームを上げるには、ヘッドライトビーム調整スクリュを(b)方向に回します。



1. ヘッドライトビーム調整スクリュ

3. トップカバーを取り付けます。

取付金具、ボルト類

取付金具とボルト類が確実に締め付けられていることを、確認してください。
必要に応じ、適切な順序とトルクで締めてください。

バッテリ

当スノーモビルには、制御弁式（VRLA）バッテリが搭載されており、バッテリの電解液の点検や、蒸留水の補充は不要です。

⚠警 告

バッテリでおこなわれる電気分解は有毒であり危険です。バッテリには硫酸が含まれており、重度の火傷を引き起こす恐れがあります。皮膚、目、衣服を接触させないでください。
接触した場合の処置：

- **体外：水洗いします。**
- **体内：大量の水または牛乳を飲みます。続いてマグネシアミルク、溶き卵、または植物性の油を飲みます。すぐに医師の診察を受けてください。**
- **目：15分間水洗いし、すぐに医師の診察を受けてください。**

バッテリは引火性のガスを排出します。火花、火炎、たばこなどを近づけないでください。充電中あるいは密閉されたスペースで使用中は充分換気をおこなってください。バッテリの近くで作業する時は必ず目を保護してください。
子供を近づけないでください。

バッテリの充電

バッテリの放電が疑われる場合は、直ちにヤマハ販売店でバッテリの充電をおこなってください。スノーモビルに電動式のアクセサリ類を装備している場合、バッテリの放電が起こりやすくなりますので留意してください。

⚠警 告

- **火気厳禁です。バッテリの充電中に近くでタバコを吸わないでください。バッテリから発生した水素ガスに引火し、爆発を引き起こす可能性があります。**
- **バッテリを取り外す時は、先に－（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。**
- **バッテリを取り付ける時は、先に＋（プラス）側リード線を接続し、次に－（マイナス）側リード線を接続します。**
- **充電中はバッテリを取り付けたり、取り外したりしないでください。バッテリから発生した水素ガスに引火し、爆発を引き起こす可能性があります。**
- **バッテリ端子にしっかりと接続されているか確認してください。**

注 意

- **VRLA（制御弁式）バッテリの充電には特殊な充電器（定電圧充電器）が必要です。定電圧充電器が無い場合はヤマハ販売店に充電を依頼してください。変電圧充電器を使用するとバッテリを損傷します。**
- **急速充電は行わないでください。**

ヒューズの交換

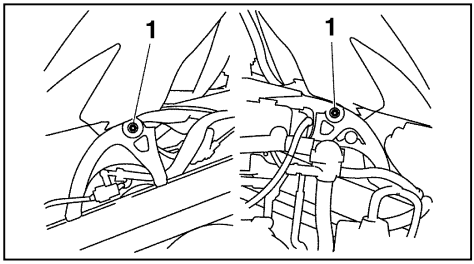
⚠警 告

必ず指定のヒューズを使ってください。指定外のヒューズを使った場合、電気系が損傷し、火災の危険が生じます。

注 意

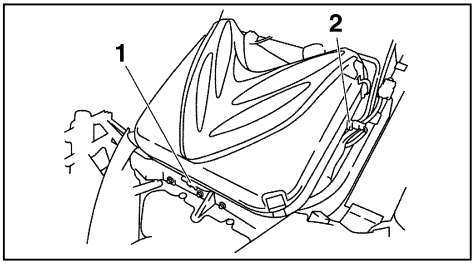
誤ってショートを起こさないように、メインスイッチをOff（オフ）位置にして、バッテリの－リード線を外してください。

1. シュラウド、左側カバーと右側カバーおよびトップカバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
2. ヘッドライトユニットのボルトを外し、ヘッドライトカプラおよびマルチファンクションメータユニットカプラを外します。その後、ヘッドライトユニットを取り外します。



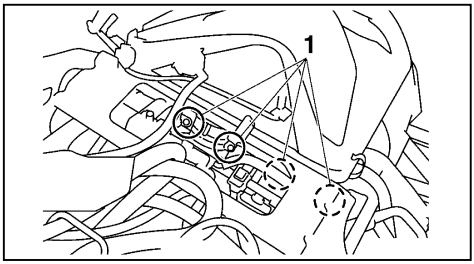
1. ヘッドライトユニットのボルト

3. エアフィルタケースのファスナーのフックを外し、吸気温センサカプラを外します。



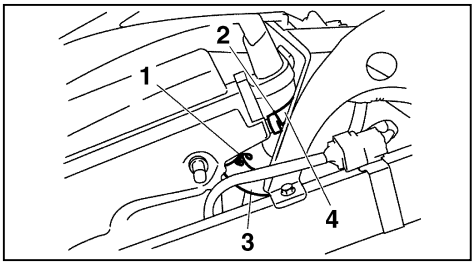
1. ファスナー
2. 吸気温センサカプラ

4. ジョイントクランプボルトを緩めます。



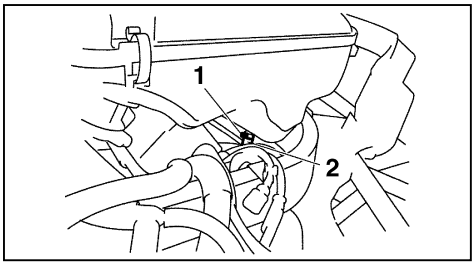
1. ジョイントクランプボルト

5. クランプをエアフィルタケースからずらし、クランクケースブリーザーホースとバイパスエアホースを外します。



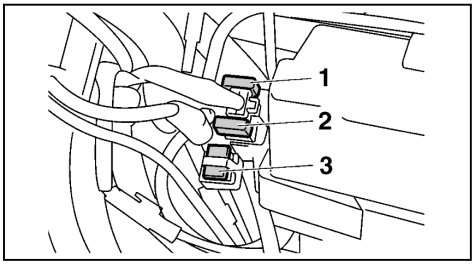
1. クランクケースブリーザーホースクランプ
2. バイパスエアホースクランプ
3. クランクケースブリーザーホース
4. バイパスエアホース

6. クランプを下にずらし、エアフィルタケースドレンホースを外します。

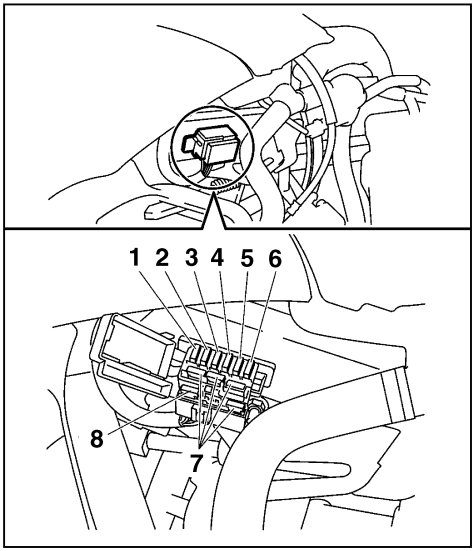


1. エアフィルタケースドレンホースクランプ
2. エアフィルタケースドレンホース

7. エアフィルタケースを外します。
8. バッテリの－リード線を外します。
9. 切れたヒューズを、適正アンペアのヒューズと交換します。



1. スペアヒューズ
2. フューエルインジェクションシステムヒューズ
3. メインヒューズ

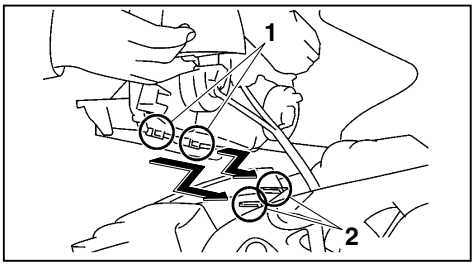


1. "HEAD"（ヘッドライト）ヒューズ
2. "SIG"（シグナルシステム）ヒューズ
3. "DC TERM"（DCジャック）ヒューズ
4. "IGN"（イグニッション）ヒューズ
5. "BACK UP"（バックアップ）ヒューズ
6. "FAN"（ラジエターファン）ヒューズ
7. スペアヒューズ
8. "ECS"（電子制御リヤショックアブゾーバ）ヒューズ

規定ヒューズ：
- メインヒューズ：
  40.0 A
- フューエルインジェクション システムヒューズ：
  10.0 A
- ヘッドライトヒューズ：
  20.0 A
- シグナルシステムヒューズ：
  10.0 A
- DCジャックヒューズ：
  3.0 A
- イグニッションヒューズ：
  20.0 A
- バックアップヒューズ：
  3.0 A
- ラジエターファンヒューズ：
  4.0 A
- 電子制御リヤショックアブソーバ ヒューズ：
  10.0 A
- スペアヒューズ：
  20.0 A, 10.0 A, 4.0 A, 3.0 A

10. バッテリの－リード線を接続します。
11. エアフィルタケースを取り外しと逆の手順で取り付けます。

12. ヘッドライトカプラとマルチファンクションメータユニットカプラを接続します。その後、ヘッドライトユニットを取り付けます。ステーの突起部が底部の溝の部分にはめ込まれているか確認してください。



1. 溝の部分
2. 突起部

13. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

ヘッドライトユニットのボルト 締め付けトルク： 3 Nm（0.3 kgf・m）

14. トップカバー、左側カバーと右側カバーおよびシュラウドを取り付けます。

要　点

交換したヒューズが再びすぐに切れる場合は、ヤマハ販売店にスノーモビルの点検を依頼してください。

トラブルシューティング

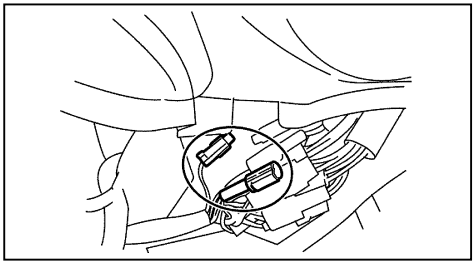
エンジンは回るが始動しない。

1. 燃料系統
   燃焼室に燃料が補給されない。
   - 燃料タンクにガソリンがない：燃料を補給する。
   - 燃料系統の詰まり：燃料系統を清掃する。
   - フューエルインジェクタ（FI）の詰まり：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

   燃焼室に燃料が補給される。
   - エンジンの燃料過多：エンジンを回転させる。またはスパークプラグを拭いて乾かす。
2. 電気系統
   スパークプラグの火花が弱いまたは無い。
   - スパークプラグがカーボンで汚れている、あるいは湿っている：カーボンを除去する、またはスパークプラグを拭いて乾かす。必要に応じ交換する。
   - 点火系統の故障：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
   - T.O.R.S.系の不具合：スロットルスイッチコネクタを外し、ワイヤーハーネスコネクタを一緒に接続してT.O.R.S.をバイパスさせる。

⚠警 告

- **T.O.R.S.をバイパスする前に、必ずスロットルを全閉位置に確実に戻しておいてください。**
- **T.O.R.S.は重要安全部品です。不具合があったらすぐにスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで修理を依頼してください。**



3. 圧縮
   不充分な場合
   - シリンダヘッドナットの緩み：ナットを正しく締め付ける。
   - ガスケットの摩耗または損傷：ガスケットを交換する。
   - ピストンとシリンダの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

バッテリ上がり

バッテリが放電した場合は、完全充電した別の12Vのバッテリとジャンパケーブルを使用してエンジンを始動できます。スノーモビルのジャンプスタート用に、2本の接続用リード線が用意されています。ラバー製のエンジンマウントを使用しているため、スノーモビルのフレームは、エンジンのジャンプスタート時のアース用には使えません。

⚠警 告

- 接続するリード線の端子にのみ、ジャンパケーブルを接続してください。スノーモビルのフレームや、他のワイヤー/リード線には接続しないでください。
- ジャンパケーブルを接続する時は、2本のジャンパケーブル、2つの接続リード線の端子を接触させたり、スノーモビルのフレームや金属部分に触れさせないでください。万一触れた場合、電気系統が損傷したり、火災が発生する恐れがあります。
- リード線のカバーを完全に引き出して、端子を完全に覆うようにしてください。端子が露出していると、スノーモビルのフレームや金属部分と接触して、電気系統の損傷や火災の原因になる恐れがあります。

注 意

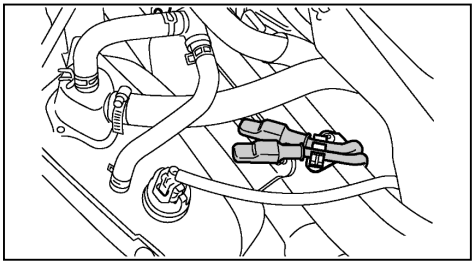
接続用リード線は、スノーモビルをジャンプスタートさせる場合にのみ、使用してください。接続用リード線を他の目的に使用しないでください。

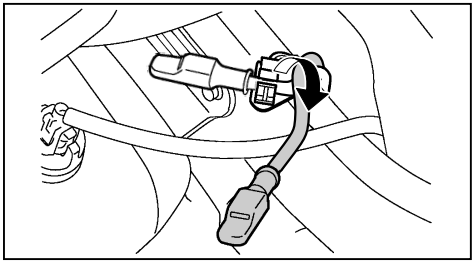
完全充電した12Vバッテリを使用してエンジンを始動する方法

1. パーキングブレーキをかけ、メインスイッチをOff（オフ）位置にします。
2. シュラウドと右側カバーを取り外します（取り外し手順は51ページを参照）。
3. 赤色（＋側）の接続用リード線をリードホルダから外し、黒色（－側）の接続用リード線から離します。

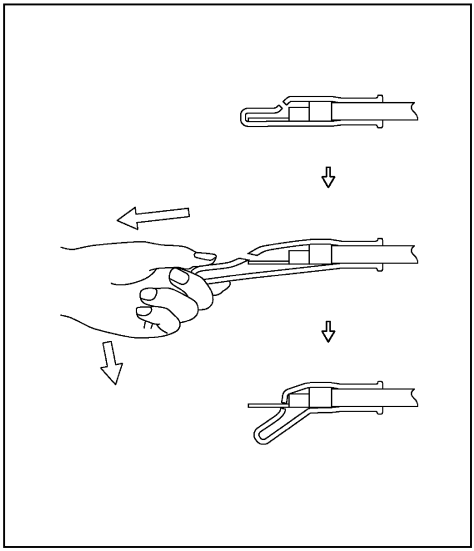
注 意

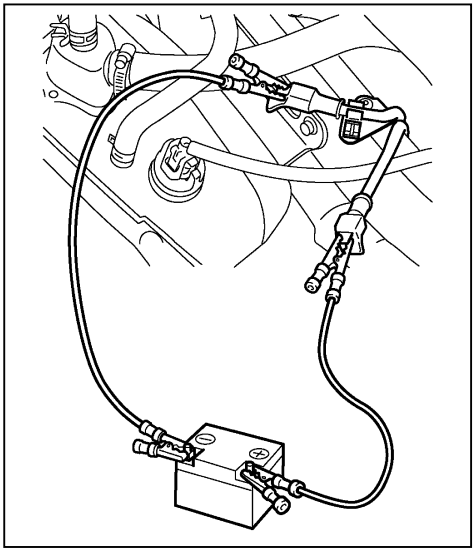
赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線に接続し、黒色（－側）のジャンパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続してください。絶対に、逆に接続しないでください。





4. 赤色（＋側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、赤色（＋側）のジャンパケーブルを赤色（＋側）の接続用リード線に接続します。





5. 赤色（＋側）のジャンパケーブルのもう一方の先端を、完全充電した12Vバッテリのプラス（＋）端子に接続します。
6. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのマイナス（－）端子に接続します。
7. 黒色（－側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、黒色（－側）のジャパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続します。
8. エンジンを始動してください。
9. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、黒色（－側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
10. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのマイナス（－）端子から外します。
11. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、完全充電した12Vバッテリのプラス（＋）端子から外します。
12. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
13. 赤色（＋側）の接続用リード線を、リードホルダに取り付けます。
14. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

要　点

赤色（＋側）の接続用リード線と、黒色（－側）の接続用リード線は、リードホルダに確実に固定してください。

電動スタータが作動しない、または回転が遅い

- エンジン停止スイッチが押されている：スイッチを引き出す。
- ワイヤー接続の不具合：接続を点検、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- バッテリ上がり：バッテリを充電するか、上記の「バッテリ上がり」を参照。
- エンジンの焼きつき：潤滑不足、不適切な燃料、またはエア漏れのため焼きつきが発生。ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジン出力が低い

- クーラント温度低下インジケータが点滅している：エンジンを暖機運転する。
- スパークプラグの不具合：スパークプラグを清掃または交換する。
- 燃料フローの異常：上記の「エンジンは回るが始動しない－燃料系統」の項を参照。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジンがいつもバックファイヤを起こす、または失火する

- スパークプラグの不具合：スパークプラグを交換する。
- 燃料系統の詰まり：上記の「エンジンは回るが始動しない－燃料系統」の項を参照。
- T.O.R.S.系の不具合：上記の「エンジンは回るが始動しない－電気系統」の項を参照。

エンジンのオーバーヒート

- クーラント不足：クーラントを補充する。
- 冷却システムへのエア混入：冷却システムのエア抜きをする、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- クーラントの漏れ：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

スノーモビルが動かない

- Vベルトクラッチの不具合：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックが動かない：ドライブトラックの異物噛み込み、または潤滑不足のためスライドランナーがスライドメタルに溶着。
- ドライブチェーンがきつい、緩い、または破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトのねじれ

- Vベルトの不良：良品Vベルトと交換する。
- Vベルトクラッチのオフセットが不適正：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- エンンマウントの緩み、破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトの滑り、焼け

- Vベルトまたはプライマリー/セカンダリーシーブアセンブリにオイルまたは泥が付着：清掃する。
- ドライブラインに問題あり：上記の「Vベルトのねじれ」を参照。

シフトアップ、シフトダウンがうまく行かない、またはシフトした時ショックがある

- Vベルトの摩耗または損傷：Vベルトを交換する、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- プライマリーシーブアセンブリの摩耗または固着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- セカンダリーシーブアセンブリの摩耗または固着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

ドライブチェーンとスプロケットのノイズまたは大きな振動

- Vベルトクラッチ部品の破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ベアリングの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- Vベルトの摩耗または損傷：交換する。
- アイドラーホイールまたはシャフトの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックの摩耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

保管方法

スノーモビルを長期間保管する時は、劣化防止のため何らかの予防措置が必要です。

エンジン

シリンダやピストンリングなどを腐食から守るために、以下の手順を実行してください。

1. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
2. 小さなスプーン1杯程度のエンジンオイルを、スパークプラグのそれぞれのボア（孔）に注ぎます。
3. 各スパークプラグにスパークプラグキャップを付け、各スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極をアースさせます（次の手順中、スパークプラグで放電されます）。
4. スタータを使って、エンジンを数回始動します（シリンダ壁にオイルを付着させます）。

⚠警 告

火花によるケガや損傷を防ぐ為に、エンジンをクランキング中はスパークプラグの側方電極を必ずシリンダヘッド部にアースしてください。

5. 各スパークプラグからスパークプラグキャップを外し、スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

シャーシ

1. 指定給脂箇所すべてにグリースを給油します。
2. ドライブトラックを緩め、シャーシをブロックの上に載せ、トラックを地上から離します。
3. スノーモビルの外装を清掃し、防錆剤を塗布します。
4. 乾燥し通気がよい場所に、カバーをかけてスノーモビルを保管してください。
5. 保管、輸送する時、スノーモビルを斜めにしないでください。

注 意

- **誤ったお手入れ方法はシュラウド、カバー、ウインドシールド、ヘッドライト、メーター等のプラスチック部にダメージを与えます。**
  柔らかい布または中性洗剤を含んだスポンジで汚れをとってください。
- **プラスチックの部分には強い薬品を使わないでください。研磨剤、溶剤やシンナー、ガソリン、錆取り、ブレーキ液、不凍液、電解液がついた布やスポンジで拭かないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車は水入りの原因となり、以下の部位にダメージを与えます：シール部（スライドレールサスペンション、フロントサスペンション、ブレーキ）、電装系統（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、排気口等。**
- **ウインドシールドのあるスノーモビルの場合：強力な洗剤や固いスポンジでのお手入れは、傷がつくので避けてください。プラスチッククリーナーの中にも傷がつくものがあります。小さな見えにくい部分でまず試してください。ウインドシールドに傷がついた場合は、洗車後に質のよいプラスチック用のワックスを使用してください。**

バッテリ

スノーモビルからバッテリを取り外してください。バッテリは、0℃以上で、30℃未満の乾燥した涼しい場所に保管してください。バッテリの状態は1ヵ月に1回点検し、必要に応じ充電してください。

注 意

バッテリは常に充電状態を保つようにしてください。放電した状態でバッテリを保管すると、バッテリに永続的な損傷を及ぼす可能性があります。

要　点

バッテリを取り付ける前に、ヤマハ販売店に点検とフル充電を依頼してください。

仕様諸元

	販売名称		RX-1 M-TX
寸法	全長		3335mm
	全巾		1165mm
	全高		1185mm
	乾燥重量		276kg
原動機	エンジン種類		4サイクル5バルブ
	冷却方式		水冷
	気筒数・配列		4気筒、並列
	総排気量		998cm^3
	内径×行程		74.0mm×58.0mm
	アイドリング回転数		1400～1600r/min
	圧縮比		11.8：1
	最高出力時回転数		10500r/min
	最大トルク時回転数		9000r/min
	始動方式		セルスタータ
	点火方式		デジタルT.C.I
	潤滑方式		ドライサンプ
	スロットルボディ型式		39EIDW×2
	スパークプラグ型式		CR9EB（NGK）
スイッチ	キルスイッチ		プッシュ・プル式
車体	フレーム		モノコック（アルミ）
	カウル		ポリプロピレン
	ラゲージボックス		シート下
	パッセンジャーグリップ		無
	燃料タンク容量		38.3L
	オイルタンク容量		2.5L
動力伝達装置	1次減速		Vベルト式
	クラッチ型式		自動遠心クラッチ
	変速機型式		Vベルト自動変速機
走行・懸架装置	走行装置	前	スキー×2
		後	トラック（内ラグ）
	トラック材質		補強入りラバー
	トラック駆動		複列駆動
	トラックゆるみ		30～35mm／10 kgf
	懸架方式	前	ダブルウィシュボーン
		後	スライドレールサスペンション
ブレーキ方式			ベンチレーテッド油圧式ディスクブレーキ
燈火	ヘッドライト		12V,60／55W×2
			High／Low ビーム付ハロゲンバルブ
	ストップ／テールランプ		LED
	バッテリ型式		YTX14-BS
	バッテリ容量		12V,12AH
乗車定員			1名

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見はご購入いただいたヤマハ販売店または下記の<ご相談窓口>へお気軽にお申し付けください。

名　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
■本社			
ヤマハ発動機販売（株）営業統括部			
営業部冬期商品販売課	☎03(5442)8059	〒108-0073	東京都港区三田3丁目10-1 アーバンネット三田ビル8F
■北海道			
ヤマハ発動機販売（株）北海道営業所			
	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
サービス課	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
■東北			
ヤマハ発動機販売（株）東北営業所			
	☎022(772)7071	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目1-10
サービス課	☎022(772)7083	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目1-10
■関東			
ヤマハ発動機販売（株）			
サービスセンター関東	☎048(449)6232	〒335-0031	埼玉県戸田市美女木1054番
■中部			
ヤマハ発動機販売（株）中部営業所			
サービス課	☎052(939)1785	〒461-0023	愛知県名古屋市東区徳川町1013
■西日本			
ヤマハ発動機販売（株）西日本営業所			
サービスセンター西日本	☎06(6397)6171	〒532-0001	大阪府大阪市淀川区十八条2丁目4-42
■九州			
ヤマハ発動機販売（株）九州営業所			
サービス課	☎092(411)3785	〒816-0097	福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7-52

【ご注意】

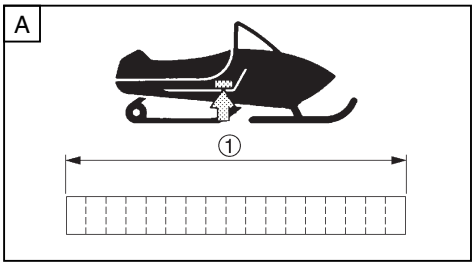
- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の親増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

識別番号の記録

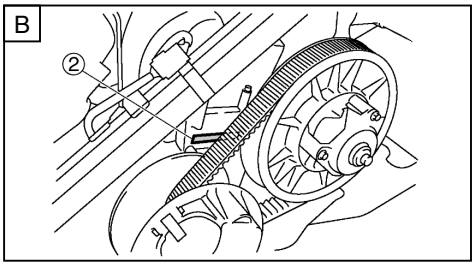
ヤマハ販売店にスペアパーツを注文するときのために、車体番号、エンジン番号を下の空欄に記入しておいてください。

A. 車体番号：

B. エンジン番号：



① **車体番号**はスノーモビルの車体に17桁の数字で刻印されています。（図 A.を参照）



② **エンジン番号**は図の位置に刻印されています。（図 B.を参照）

スノーモビルが盗難にあったときのためにこの取扱説明書とは別に番号を控えておいてください。

保証

問題の原因特定やその対処方法について疑問がある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。認められていない修理、場当たり的な修理、または間違った修理をおこなった場合は保証が無効になりますので、保証中でも特に注意が必要です。ヤマハ販売店にはスノーモビルを正しく修理するために必要な特殊ツール、専門の技術、および予備部品が備わっています。仕様や保守手順に疑問があれば、常にヤマハ販売店にご相談ください。場合によっては、取扱説明書の印刷ミスや製造変更が原因で本書の説明が正しくないことがあります。当モデルに完全に精通するまでは、保守作業を始める前にヤマハ販売店にご相談ください。詳しい保守作業や点検のための情報をご希望の場合、ヤマハ販売店からサービスマニュアルを購入することもできます。

索引（さくいん）

あ行

⚠安全にご使用するにあたって 8
一般的な点検と潤滑チャート 49
運転中は 8
運転の前に 8
エアフィルタの点検 58
エクストロバートドライブ
　スプロケット 73
エンジンオイルと
　オイルフィルタカートリッジ 60
エンジン停止 47
エンジン停止スイッチ 22
エンジンのアイドリング回転数の
　調整 55
エンジンの始動 38
オイルレベル警告灯 21
お客様ご相談窓口のご案内 96

か行

各部の名称 12
風通しの悪い場所でエンジンを
　始動しない 9
給脂 78
クーラント温度警告灯 21
クーラント温度低下インジケータ 18
グリップ/サムウォーマー調整
　スイッチ 23
コントロール機能（各部の機能）..... 14

さ行

サスペンション 31
識別番号の記録 98
自己診断装置 22
始動の前に 8
シフトレバー 26
収納用コンパートメント 29
重要ラベル 4
シュラウドとカバー 27
シュラウドとカバーの取り外しと
　取り付け 51
仕様諸元 94
使用前の点検 36
使用前の点検リスト 36
スキー、スキーランナー 73
ステアリング系 74
ストラップ 45
スノーモビルに乗る 40
スパークプラグの点検 53
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）..... 15
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）の点検 57
スロットルケーブルの遊びの調整 56
スロットルレバー 14
走行 46
操作方法 38

た行

ツールキット 51
定期点検 48
ドライブガード 27
ドライブチェーンハウジング 69
ドライブトラック、
　スライドランナー 75

ドライブトラックを
　長持ちさせるには 45
トラブルシューティング 86
取付金具、ボルト類 81

な行
慣らし運転 39
燃料 30
燃料計とグリップ/サムウォーマー
　レベルインジケータ 19

は行
パーキングブレーキレバー 26
排ガス制御装置の
　定期点検チャート 48
ハイビームインジケータ 18
バッテリ 81
バルブクリアランス 59
ヒューズの交換 82
標高の高い場所で走行する場合
　の設定 59
フューエルレベル警告灯 20
ブレーキ、パーキングブレーキ 70
ブレーキレバー 25
ヘッドライトバルブの交換 79
ヘッドライトビームスイッチ 23
ヘッドライトビームの調整 81
保管方法 92
保守と保管 10
保証 99

ま行
マルチファンクション
　メータユニット 16
メインスイッチ 14

や行
山高パターンのドライブトラック 78
ヤマハ純正部品 9
輸送 47

ら行
リヤキャリヤ 29
冷却システム 64

アルファベット
DCジャック 24
Vベルト 66
Vベルトホルダ 29

★ヘルメットを必ずかぶりましょう。
★オフロードモデルは公道を走れません。
★点検・整備を忘れずに。
★安全のため改造はやめましょう。
★安全運転講習を受けましょう。
★天気予報を確認して、無理のないツアー計画を。
★ツアー時は安全備品や予備燃料を忘れずに。
★マナーを守って走行しましょう。
★動物や植物など自然への思いやりを。
★スノーモビル保険に加入しましょう。
★オフロードモデルは運輸省の認定を受けていませんので、
ナンバープレートを取得できません。
★オフロードモデルの公道走行は、道路交通法及び
道路車両法の違反となります。

YAMAHA

QQS-CLT-851-8GY
2009.09-0.1×1
再生紙を使用しています。